デンマーク、スウェーデン視察 報告書 2017年11月12日~19日

福岡市議会議員 森 あや子

目 次

日程: 2017年11月12日~19日

日 時 福市名と視察内容等 交通機関等 頁 11月 12日(日) 17:30~18:00 ・市庁舎見学、レンタサイクル	<u> </u>	午 月 日~ 日	-L >7 MA DD 66	
11月12日(日) 17:30~18:00 2日目 11月13日(月) 8:00~ 9:00	日時	都市名と視察内容等	交通機関等	頁
17:30~18:00 ・市庁舎見学、レンタサイクル (コペンハーゲン泊) 2 日目 11月13日(月) 8:00~ (公共交通:自転車活用鉄道など交通機関 ・歴史施設:カステレット要塞 アマリエンボー城、大理石教会等 (コペンハーゲン泊) 3 日目 11月14日(火) 8:00~11:00 ・森の幼稚園		福岡⇒羽田⇒成田⇒コペンハーゲン	ANA2142, SK984	
2 日目 11月13日(月) 8:00~ 9:00	11月12日(日)			P1
11月13日(月) 8:00~ 9:00	17:30~18:00	・市庁舎見学、レンタサイクル	〔コペンハーゲン泊〕	
8:00~ 9:00	2日目	コペンハーゲン滞在	電車	
9:00	11月13日(月)			
************************************	8:00~	・公共交通:自転車活用鉄道など交通機関		P2~11
3 日目 11 月 14 日(火) 8:00~11:00 11:30~14:30 16:00~17:30 4 日目 11 月 15 日(水) 8:30~10:00 11:30~13:30 14:30~16:00 11:30~13:30 14:30~16:00 15:00~21:00 16:00~21:00 17:00~16:00 18:30~10:00 19:00~21:00 19:00~21:00 19:00~11:30 16:30~17:30 16:30~17:30 16:30~17:30 17 日目 11 月 17 日(金) スウェーデン訪問(ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設、まちづくりについて ア16:00 17 日目 11 月 18 日(土) 8:50~9:20 12:00~ 18 日目 17 日日 17 日8 日(土) 17 日日 17 日8 日(土) 18:50~9:20 17 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	9:00	・歴史施設:カステレット要塞		
11月14日(火) 8:00~11:00 11:30~14:30 16:00~17:30 ・ ************************************	~15:00	アマリエンボー城、大理石教会等	〔コペンハーゲン泊〕	
8:00~11:00 - 森の幼稚園 - フォルケホイスコーレ (国民高等学校) - (コペンハーゲン泊) - STU 特別アレンジ若者教育学校 - (コペンハーゲン泊) - 特別高校 - 小中一貫学校 - ・高齢者ケアホーム - ・Berit 家訪問 - 保育ママセンター - ・世界ーバリアフリー障害者施設 - (コペンハーゲン泊) - 保育ママセンター - ・世界ーバリアフリー障害者施設 - (コペンハーゲン泊) - (日目 - (ロペンハーゲン泊) - (日目 - (ロペンハーゲン泊) - (日日 - (ロペンハーゲン泊) - (日日 - (ロペンハーゲン泊) - (日日 - (ロペンハーゲン泊) - (ロペンハーゲン) - (ロペンハーゲン) - (ロペンハーゲン) - (ロペンハーゲン) - (ロペンハーゲン) - (関中 泊) - (関中 泊) - (関中 泊) - (関中 泊) - (ロペンハーゲン) - (関中 泊) - (関中 泊) - (ロペンハーゲン) - (関中 泊) - (関中 泊) - (ロペンハーゲン) - (ロ	3日目			
8:00~11:00 - 森の幼稚園 - フォルケホイスコーレ (国民高等学校) - (コペンハーゲン泊) - STU 特別アレンジ若者教育学校 - (コペンハーゲン泊) - 特別高校 - 小中一貫学校 - ・高齢者ケアホーム - ・Berit 家訪問 - 保育ママセンター - ・世界ーバリアフリー障害者施設 - (コペンハーゲン泊) - 保育ママセンター - ・世界ーバリアフリー障害者施設 - (コペンハーゲン泊) - (日目 - (ロペンハーゲン泊) - (日目 - (ロペンハーゲン泊) - (日日 - (ロペンハーゲン泊) - (日日 - (ロペンハーゲン泊) - (日日 - (ロペンハーゲン泊) - (ロペンハーゲン) - (ロペンハーゲン) - (ロペンハーゲン) - (ロペンハーゲン) - (ロペンハーゲン) - (関中 泊) - (関中 泊) - (関中 泊) - (関中 泊) - (ロペンハーゲン) - (関中 泊) - (関中 泊) - (ロペンハーゲン) - (関中 泊) - (関中 泊) - (ロペンハーゲン) - (ロ	11月14日(火)			
11:30~14:30 16:00~17:30 ・STU 特別アレンジ若者教育学校 (コペンハーゲン泊) 4 日目 11月15日(水) 8:30~10:00 ・特別高校 ・小中一貫学校 ・高齢者ケアホーム 19:00~21:00 ・Berit 家訪問 (コペンハーゲン泊) 5 日目 11月16日(木) 9:00~11:30 ・世界ーバリアフリー障害者施設 16:30~17:30 ・世界ーバリアフリー障害者施設 「デンマークと日本の違いについて」 (コペンハーゲン泊) 6 日目 11月17日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設、カロンボー城等 (コペンハーゲン泊) 7 日目 11月18日(土) 8:50~9:20 12:00~		・森の幼稚園		P12~28
16:00~17:30 ・STU 特別アレンジ若者教育学校 [コペンハーゲン泊] 4 日目 11月15日(水) 8:30~10:00 ・特別高校 ・ ルーー貫学校 11:30~13:30 ・ ルーー貫学校 14:30~16:00 ・ 島erit 家訪問 [コペンハーゲン泊] 5 日目 11月16日(木) 9:00~11:30 ・ 保育ママセンター ・ 世界ーバリアフリー障害者施設 「デンマークと日本の違いについて」 [コペンハーゲン泊] 6 日目 11月17日(金) スウエーデン訪問 (ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7 日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] 8 日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259				
4 日目 11 月 15 日(水) 8:30~10:00 11:30~13:30 14:30~16:00 19:00~21:00 Berit 家訪問 [コペンハーゲン泊] 5 日目 11 月 16 日(木) 9:00~11:30 - 保育ママセンター 15:00~16:30 16:30~17:30 6 日目 11 月 17 日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて で16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7 日目 11 月 18 日(土) 8:50~9:20 12:00~ B田⇒羽田⇒福岡 RP29~49 P29~49 P20~100000000000000000000000000000000000			 「コペンハーゲン泊〕	
11月15日(水) 8:30~10:00 - 特別高校 - 小中一貫学校 - 高齢者ケアホーム 19:00~21:00 - Berit 家訪問 - 保育ママセンター - 世界ーバリアフリー障害者施設 - デンマークと日本の違いについて」 - 同日 - 11月17日(金) - スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) - 歴史・文化施設、まちづくりについて - ~16:00 - 歴史・文化施設 クロンボー城等 - ア50~9:20 - コペンハーゲン泊] - ア1月1月18日(土) - 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 - 178~80			())) / ()	
8:30~10:00 11:30~13:30 14:30~13:30 19:00~21:00 19:00~21:00 5日目 11月16日(木) 9:00~11:30 16:30~17:30 16:30~17:30 6日目 11月17日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて ~16:00 歴史・文化施設、すちづくりについて 不16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 「コペンハーゲン泊」 「コペンハーゲン泊」 「ランマークと日本の違いについて」 「コペンハーゲン泊」 「デンマークと日本の違いについて」 「コペンハーゲン泊」 「アシマークと日本の違いについて」 「コペンハーゲン泊」 ア68~77 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設、すちづくりについて を要・文化施設 クロンボー城等 「コペンハーゲン泊」 ア1月				
11:30~13:30 14:30~16:00 19:00~21:00 19:00~21:00 5日目 11月16日(木) 9:00~11:30 15:00~16:30 16:30~17:30 「デンマークと日本の違いについて」 6日目 11月17日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設 クロンボー城等 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 12:00~ 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259		 集団 真恭		P20~/10
14:30~16:00 19:00~21:00 - 高齢者ケアホーム - Berit 家訪問 5日目 11月16日(木) 9:00~11:30 - 保育ママセンター - 世界ーバリアフリー障害者施設 16:30~17:30 「デンマークと日本の違いについて」 「コペンハーゲン泊」 6日目 11月17日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて ~16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 「コペンハーゲン泊」 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 12:00~ のコペンハーゲン⇒成田 「機中 泊] 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259				123 43
19:00~21:00 · Berit 家訪問 [コペンハーゲン泊] 5日目 11月16日(木) 9:00~11:30 · 保育ママセンター 15:00~16:30 · 世界ーバリアフリー障害者施設 16:30~17:30 「デンマークと日本の違いについて」 [コペンハーゲン泊] 6日目 11月17日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) P68~77 8:30~ 歴史・文化施設、まちづくりについて				
5 日目 11 月 16 日(木) 9:00~11:30 ・保育ママセンター ・世界ーバリアフリー障害者施設 16:30~17:30 「デンマークと日本の違いについて」			【コペンハーだい治】	
11月16日(木) 9:00~11:30 15:00~16:30 16:30~17:30 6日目 11月17日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて ~16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259		- Delit 家副同	「コペンハーケン油」	
9:00~11:30 ・保育ママセンター 15:00~16:30 ・世界ーバリアフリー障害者施設 16:30~17:30 「デンマークと日本の違いについて」 [コペンハーゲン泊] 6日目 11月17日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設、まちづくりについて で16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259	, ,			
15:00~16:30 16:30~17:30 「デンマークと日本の違いについて」 「コペンハーゲン泊」 6日目 11月17日(金) スウエーデン訪問(ヘルシンボリ市) 8:30~ 歴史・文化施設、まちづくりについて ~16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 「コペンハーゲン泊」 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 「機中 泊] 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259		の名フラムンク		DEO67
16:30~17:30 「デンマークと日本の違いについて」 [コペンハーゲン泊] 6日目 11月17日(金) スウエーデン訪問 (ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259				P50~67
6 日目 11 月 17 日(金) スウエーデン訪問 (ヘルシンボリ市) 歴史・文化施設、まちづくりについて ~16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 7 日目 11 月 18 日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 「機中 泊〕 8 日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259			C0	
11月17日(金) スウエーデン訪問 (ヘルシンボリ市) P68~77 8:30~ 歴史・文化施設、まちづくりについて で16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] ANA259		「アンマークと日本の遅いについて」	してスクハーケン汨」	
8:30~ 歴史・文化施設、まちづくりについて 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] ANA259				
8:30~ 歴史・文化施設、まちづくりについて ~16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259	11 月 1 / 日(金)			
~16:00 歴史・文化施設 クロンボー城等 [コペンハーゲン泊] 7日目 11月18日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] 8日目 成田⇒羽田⇒福岡				P68~77
7 日目 11 月 18 日(土) 8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] 8 日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259				
11月18日(土)8:50~9:20歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~8012:00~コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊]8日目成田⇒羽田⇒福岡ANA259		歴史・文化施設 クロンボー城等	〔コペンハーゲン泊〕	
8:50~9:20 歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等 SK983 P78~80 12:00~ コペンハーゲン⇒成田 [機中 泊] 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259	7日目			
12:00~ コペンハーゲン⇒成田 〔機中 泊〕 8日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259	11月18日(土)			
8 日目 成田⇒羽田⇒福岡 ANA259	8 : 50~9 : 20	歴史・文化施設 クリスチャンボー宮殿等	SK983	P78~80
	12:00~	コペンハーゲン⇒成田	〔機中 泊〕	
11月19日(日)	8日目	成田⇒羽田⇒福岡	ANA259	
	11月19日(日)			

国外出張報告 調査結果

【日程】

2017年11月12~19日 デンマーク、スウェーデン視察

【目的】

幸福度世界ランキングが上位にあるデンマーク、スウェーデンにおいて、先進的に取り組まれている教育・保育・福祉の在り方を学ぶために施設を訪問・交流し、幸福度(国民の満足度)の高い実態を調査。

北欧の文化や歴史から、また施設や家庭などを訪問して、そこで働き学び暮らす人々が大切にしているものを学び取り、その人生観・人間観・社会観などを理解し、生き方の理念を学ぶ。

両国とも高負担高福祉国家であり、世界幸福地図では世界 178 ヵ国で上位、世界価値観調査での幸福度でも、デンマーク 2 位でスウェーデン 3 位の、民主主義が確立し民が行う政治によりつくられた福祉国家の実態を調査。

視察中に利用する公共交通機関等を体験しながら、デンマークの環境に配慮した自転車社 会の実態等を調査。

【項目】

- ・高齢者・障がい者施設調査…訪問・交流し、福祉の基本原則が徹底された支援の在り方 などを学ぶ
- ・保育や教育施設調査…訪問・交流し、子ども若者の自己決定を尊重する教育・保育の在り方などを学ぶ
- ・文化・歴史等調査…デンマーク、スウェーデンの文化や歴史の施設を見学し、街を実際に歩くなどをして、現代に引き継がれたものや新しい考えなども含めた、まちづくりへの配慮空気に触れ、幸福度世界一を実現した背景や考え方を知る
- ・自転車社会の実態調査…低エネルギー社会をめざし、実現している状況を知る

「デンマーク」 東経 10 度、北緯 55 度 (※日本最北の北海道稚内市は北緯 45 度)

人口:約578万人(2018年デンマーク統計局、兵庫県とほぼ同じ)

面積:約4.3万㎞(九州とほぼ同じ)

首都: コペンハーゲン (人口約60.6万人) 面積は約88.25平方km

州:シェラン地域、中央ユラン地域、 南デンマーク地域

デンマークは、北ヨーロッパのバルト 海と北海に挟まれたユトランド半島と その周辺の多くの島々からなる立憲君 主制国家。北欧諸国の1つであり、北 では海を挟んでスカンディナヴィア諸 国、南では陸上でドイツと国境を接す る。首都コペンハーゲンはシェラン島 東海岸に位置する。



「スウェーデン」

人口:1,012万人(2017.12、スウェーデン統計庁)

面積:約45万km (日本の約1.2倍)

首都:ストックホルム(市人口約93万人)

スウェーデンは、北ヨーロッパのスカンディナヴィア半島に位置する立憲君主制国家。首都はストックホルムで、西にノルウェー、北東にフィンランドと国境を接し、南西にカテガット海峡を挟んでデンマークと近接する。東から南にはバルト海が存在し、対岸のロシア、バルト三国、ポーランド、ドイツとの関わりが深い。

(Wikipedia、外務省 HP より)



11月12日(日)17:30~18:00

・文化・歴史を知る①

コペンハーゲンの目抜き通り「ストロイエ」の起点に建つ中世デンマーク様式と北イタリアのルネッサンス様式を取り入れた赤レンガの立派な建物。完成したのは1905年。この市庁舎の塔は高さが105.6メートルもあり、コペンハーゲンでは一番高い建造物。その背景には、この塔以上高い建物を建ててはいけないという条例があり、コペンハーゲンの落ち着いた街並みをつくり出している。



コペンハーゲン市庁舎

自転車社会の実態

デンマークの街中には、バッテリーをチャージする専用の 自転車置場がある。自転車シェアリングサービスは、あら かじめ web 上で自身のクレジットカードを登録しておく と市内にある特定の自転車置き場の自転車をその場で認 証し、利用することができる。

自転車にはあらかじめナビ端末が備え付けられていて、利用中はWifi, GPSの情報走行経路や市内の自転車置場の場所などを調べることがでる。市民だけでなく観光で訪れ



レンタルサイクル

た方も、エコでアクティブに動くことができる。自転車を市内のどこかの充電スタンドに戻す と自動的に会計が完了し、直ぐに携帯にも料金や走行時間、距離などの情報が送られてくる。 このように自分の自転車を乗るような形で気軽に利用することがでる。

その日と年間何台の自転車が通過したかがわかる**カウンター**が、市庁舎前の歩道に設置されている。→



世界一幸せな国デンマークの首都、コペンハーゲンは、世界的にも有名な「自転車の街」。統計によると、コペンハーゲン市民の40%近くが、毎日、電車や車の代わりに自転車で通勤通学をしている。自転車は、市民のライフスタイルに深く浸透している。



朝の通勤風景(11月13日撮影)



夕方の風景 (11月17日撮影)

11月13日(月)8:00~9:00 コペンハーゲン滞在

・自転車社会の実態(公共交通:鉄道など交通システム)

デンマークでは、電車のなかにも自転車を持ち込めるようになっているので、離れた郊外 にある学校に通うにも、毎日、自宅の最寄り駅まで自転車を漕いで行き、そのまま自転車 と一緒に電車に乗り、学校の最寄り駅から学校まで再び自転車に乗って通学できる。

自転車の利用を積極的に奨励しているコペンハーゲン市では、市内のいたるところで自転 車を利用しやすいまちづくりがされている。







自転車やベビーカー専用車両内外にはマークが大きく表示されている。







座席は折り畳み式で、自転車の客がいなければ倒して座っても大丈夫。







駅の駐輪場

若者もママ世代も自転車を利用する



①親子で楽しく「クリスチャニアバイク」とよばれる前に荷台がついたタイプの自転車も 良く走っていた。(写真 NAVER まとめ より)

②このようなデザインの自転車もまちで見かけた。

デンマークは、全国の最高標高地点は 173 メートルしかない。その地の利も活かして、自転車道のインフラが着々と構築されてきた。自転車で通勤する人々の姿はデンマークの特にコペンハーゲンの日常的な光景になっている。自転車通勤をする理由には、いくつか要因がある。まず大きなものは、自身の健康維持のため、そして環境保護のため、という理由。加えて、自転車通勤にランニングコストがかからないことが、非常に重要なインセンティブになっている。デンマークでは一般的に勤務先から交通費が支給されないので、電車やバスに乗れば、すべて自分の持ち出しの費用になってしまう。お金が掛からない自転車を選択する人が多くなるのは自然の流れである。また、デンマークの電車は、遅延する場合もあり、マイカーによる通勤では、常に市内のどこかで行われている工事のため、渋滞が発生することも多い上、市街地には駐車スペースも十分にないことも要因の一つ。多くの人は、自転車による移動が最も早く、また確実に到着できる手段だと考えている。「自転車に乗っていると楽しいから」という理由もあると言われ、国民の高い幸福度が現れている。

大臣や国会議員であっても、当然のように自転車で通勤しているということ。国会議事堂 であるクリスチャンボー宮殿の目の前には自転車置き場がある。政治家がこうして率先し て自転車を利用しているから、整備も進んでいったと考える。

2012 年 4月に、コペンハーゲン市と同市西方に位置するアルバーツルンド市の間、17.5km を結ぶ自転車専用の高速道路が初めて完成し、自転車通勤者の移動距離は 20km 圏まで大幅 に拡大したとされている。今後、都市部周辺を中心に、自転車専用高速道路(サイクリングスーパーハイウェイ)がデンマーク国内に計 300km に渡って建設される予定とのこと。 大使館裏にかかっている自転車と歩行者だけのための橋もあるとのこと。





クリスチャンボー宮殿の自転車置き場(11月18日撮影)

所見:福岡でも、レンタサイクルを一度モデル的にしてみたが、その時は観光用のみの都心部は部外視されていたため実用にはならなかったと聞いている。他都市でもレンタサイクルを始めているところがある。ぜひ、福岡都心部での活用を進め実現してほしい。日本だと電車への持ち込みは折り畳み式に限られるが、自転車を利用しやすい工夫や駐輪場の整備など実現し、エコ社会を、市民も訪れた方も楽しめるようになればと思う。

11月13日(月)9:00~15:00

・文化・歴史を知る②

「アンデルセン」の銅像と「人魚姫」像

世界的な童話作家・詩人であるデンマーク生まれの偉大なハンス・クリスチャン・アンデルセン (1805年4月2日~1875年8月4日)の銅像は、デンマークの各地にたてられていて、もっとも有名なものは、コペンハーゲンの市役所の側にあり、チボリ公園の方を見ているようにたっている。

「裸の王様」「みにくいアヒルの子」「人魚姫」「おやゆび姫」「マッチ売りの少女」「雪の女王」「赤い靴」など多数の有名な作品がある。

そのアンデルセンの童話「人魚姫」像は、カステレット要塞の側にある。







「アンデルセン」の像と「人魚姫」像

絵本専門店

コペンハーゲンでは、絵本専門店をよく目にした。デンマークでは各家庭で毎晩のように子どもたちが寝る前に絵本の読み聞かせをしている (グッドナイトストーリーと呼んでいる)。

物語そのものの絵本が持つ魅力と愛情のこもった親や祖父母とのゆったりした時間を過ごすことを経験した子どもたちは、自他への優しさや穏やかさ、そして想像力、創造力を培っていき、困難なことにぶつかっても乗り越える生きる力を備えていく。それが、暮らしの中に自然に表れ、前向きで楽しく生きることができる人へと成長していくのではないかと言える。

アンデルセンは、貧しい靴職人の家庭で育ち、人生も紆余曲折しながら何度も苦境にあった時に、人に助けられる経験を重ね、人の優しさに支えられてきた。その経験が作品の中に息づき、貧しかった時代のデンマークの人々の心の支えになっていたのではないか、童話のストーリーだけが読み聞かせで伝えられたのではなく、そういったものが親から子へ、そしてまたその子が親になり次の世代へ繋がって行っていると言える。幸福度が常にランキング上位にある国は、こうして絵本が育んだ自他への優しさや楽しく幸せに生きていくための基盤が、根底から"人に優しい、人が優しい国"づくりになっていると思う。

「人魚姫」像の対岸にあるゴミ処理発電施設 → 老朽化したゴミ処理場が、スキー場を併設した斬新なゴミ処理火力発電施設になった。ごみ焼却炉として年間 40 万トンのごみを燃やし、16 万世帯に熱湯を、6 万世帯以上に電気を届ける。前施設と比べ 24%多くのエネルギ



ーを生み出す一方で、年間 10 万トンの CO 2 を削減する性能があるとのこと。

ゴミ処理や環境対応能力などで最新の技術を採り入れ、単なる建て替えではなく、未来型のゴミ処理施設のビジョンとして、ゴミ処理とエネルギー生産両分野の模範例となっている。

環境先進国らしく、廃棄物を処理した際に発生する熱を回収し利用するサーマルリサイクルを採用し、この技術によって、ごみ焼却から排出されるものは、二酸化炭素と水蒸気のみで、ろ過技術も加わって、コペンハーゲン中心部よりも空気がきれいに保たれるとのこと。

対岸の施設紹介として写真を撮ったが、説明で驚いたのは、スキー場と一体化した複合施設ということ。

屋根部分は初心者から上級者まで楽しめる広さ3万1000平方メートルの600メートル級のスキー用スロープとなっている。ハイキングコースやカフェも併設され、市民の憩いの場となっている。(国際的な建築デザイン会社のBjarke Ingels Group(BIG)が手掛けた)

(詳細な数字等は IDEAS FOR GOOD 社会をもっとよくする世界のアイデアマガジンより引用)

「カステレット要塞」

カステレット要塞は、海外からの船が往来するコペンハーゲン港の入口を防御するために 1662 年に築かれた星形の要塞。敷地内には砲台が少し残されているが、かつての要塞の面 影はなく、今ではのどかな雰囲気と自然の緑に包まれた美しい公園として、市民の散歩や ランニング、のんびりと過ごす憩いの場として使われている。要塞中心部には兵舎が残っ ているが、軍用としては使用されていない。

カステレット要塞













入口ゲート

内部兵舎

「チャーチル公園」

17 世紀の要塞であるカステルレットとストリートエスプラネードの間にある公立公園。緑地としての歴史が長い。イギリスの元首相ウィンストン・チャーチルと第二次世界大戦の時のナチス・ドイツに占領されていたデンマーク解放のための英国の援助を記念して、1965年にイギリスへの感謝の気持ちから命名され、現在のチャーチル公園と名付けられた。公

園の入口にはウインストン・チャーチル像が立てられている。1880 年代に、カステレットは防衛の役割を終えた。その後、アルバンの英語教会が敷地内に建てられた。 第二次世界大戦後、この場所は1957年に完成したデンマーク・レジスタンス博物館の家としても選ばれた。この地域にいくつかの戦没者記念碑も建てられた。ゲフィオンの噴水(シェラン島の由来にまつわる北欧神話の女神、ゲフィオンの説話に基づく4頭の牛で大地を鋤くゲフィオンの像を備えた噴水)もこの公園内にある。(ヒレレズにあるスカンディナヴィアで最も大きなルネサンス様式の宮殿フレデリクスボー城の天井飾り部分にも、ゲフィオンが土地を鋤き取る場面が描かれているとのこと。)冬場は水を涸らしてある。







聖アルバニ 英国教会

チャーチル像

ゲフィオンの噴水

「デザインミュージアム」外観見学





デンマーク最大のデザイン博物館「デザインミュージアム・デンマーク」

元王立病院だった建物は重厚な外観で、ロココ調の建物は中庭を囲んでロの字型になっている。ミュージアムは1895年に開館していたが、コレクションが増えて手狭になったため、1926年にフレデリック教会の近くのこの場所に移転している。

デンマークの代表的なデザイナーの椅子やインテリア等作品が展示され企画展も開催されている。

コレクションは中世後期から現代まで幅広い年代にわたり、2016 年 3 月からは「デニッシュ・デザイン・ナウ」と称して家具、プロダクト、グラフィック、工芸などジャンルに関わらず 21 世紀のデンマークの最先端デザインを紹介する常設展示がされているとのこと。企画展として、2017 年 9 月ごろ「日本に学ぶ」と題した展覧会が開催され、デンマークの陶芸家が日本の釉薬や手ひねり技法を学び、和紙を使った日本の照明や木工家具もデニッシュ・モダンに大きな影響を与えたとのこと。

この日、建物の中には入っていないが、2017年はデンマークと外交協力150周年を迎え、

この機に様々な企画催しが開催され、6月には皇太子が博物館を訪れていたとのこと。 また、日本の能楽は、世界で最も古い現代舞台芸術の伝統の中で 600 年以上の歴史を誇っ ているとして、9月にはノーシアターと題し催しが開催された。

「アマリエンボー宮殿」外観と衛兵交代式見学









アマリエンボー宮殿

広場中央の騎馬像

衛兵交代式

アマリエンボー宮殿はデンマークの首都コペンハーゲンにある冬の王宮。

クリスチャンスボー城が 1794 年 2 月 26 日に焼失し、王室がこの宮殿を購入し居所を移した。以来、歴代の国王とその家族がここに居住するようになった。

この宮殿は、八角形の広場の周りに 4 つの貴族のための宮殿(クリスチャン 7 世宮殿・クリスチャン 8 世宮殿・クリスチャン 9 世宮殿・フレゼリク 8 世宮殿)からなり、広場の中央にはこの宮殿造営者のフレデリク 5 世の騎馬像がある。

女王の滞在中にはデンマーク近衛兵が、午前 11 時 30 分にローゼンボー城からコペンハー ゲンの通りを通過し、正午にはアマリエンボー宮殿の前で衛兵交代する。宮殿前広場は市 民に開放されており、衛兵交代式を見ることができた。

「フレデリック教会」













アマリエンボー宮殿の向かいに聳え立つ福音ルター派フレデリック教会。1894 年にロココ 建築様式で建てられた北欧最大のドーム建築であり、大理石教会としても知られている。 北欧最大ともあり天井画の壮大さ、装飾等がとても素晴らしかった。信仰の深さ、見えな いものを大切にする意識が現れている。厳粛さと心の落ち着きを感じた。ちょうどパイプ オルガンの演奏があり、重厚な雰囲気に包まれた。

「ニューハウン」見学







コペンハーゲンのシンボル的な通り、絵葉書通りと言われるように、コンペンハーゲンらしい雰囲気が漂う港まちニューハウン。人工の運河沿いに造られたパステルカラーの建物が立ち並び、レストランやカフェに観光客も訪れる。コペンハーゲンとは「商人の港」という意味で、古くからニシン漁が盛んに行われていた。良質な港と漁を守るため、近海は要塞化され、かつては船員街で、船乗りたちの集う繁華街として栄え、商人の港として発展していった。度々戦火に見舞われたが、ローゼンボー宮殿やラウンドタワーなど16~17世紀にかけて建設された中世の建物が今も残りその歴史を感じさせる。市内の建物やアパートの中には、古いもので300年以上前に建てられたものがあり、丁寧に修復を重ねて使われ続けているとのこと。アンデルセンもこのまちを愛した。18年間暮らしていた赤い家は今も残っているとのこと。

「シャーロッテンボー宮殿」外観見学

オランダ・バロック様式の宮殿。入口から入った右手の建物ができたのは 1670 年で、現在では画家、彫刻家、建築家を養成するロイヤル・アカデミー・オブ・アート (王立芸術アカデミー) となっている。入口左手の建物は 1883 年築。

現在は美術館として使用され、デンマークや海外のコンテンポラリーアート作品の展示や 建築イベントなどが開かれている。



右手の建物



左手の建物



外の通路

「王立劇場」外観見学





古く歴史を感じさせる石造りのデンマーク最古の劇場。市内中心部コンゲンス・ニュートー広場の南に位置し、ニューハウンに隣接している。1874年に杮落しが行われた。観客席

は約 1,500 席。オペラやクラシック音楽、デンマーク王立バレエ団のバレエなどの上演が 行なわれている。

「ローゼンボー城」外観と敷地内見学





ローゼンボー城は、デンマークの首都コペンハーゲンの中心部にある小さな城。1606 年にサマーハウスとしてクリスチャン4世により建てられた離宮で、デンマークを代表するルネッサンス様式の城。その後増築され1624年に現在の姿になっている。

城は、現在では国有財産で、城内部は現在王室コレクションを展示する宝物殿となっている。デンマーク最古の庭園の、園内には大きなコンポストがいくつか置かれ、植物栽培のために管理されていた。寒い地域なので花の咲く時期が短いため、赤い実のなる植物を多く植えられているとのこと。

敷地内のコンポスト



赤い実の木







城の隣には近衛隊の兵舎があり、アマリエンボー宮殿で行われる衛兵交代式の行進出発地 点になっている。

近衛隊の兵舎

「国立自然史博物館コペンハーゲン大学植物園」敷地内見学







入口案内板

自転車置き場

温室





コペンハーゲンの中心にある植物園。10 ヘクタールの敷地で、1874 年に建設された歴史のある温室も有名。

コペンハーゲン大学の一部であるデンマーク自然史博物館の一部門で、研究、教育および 市民のためレクリエーションのための施設として用いられている。

植物園は 13,000 種の種が栽培され、デンマークの植物 (600 種)、多年草 (1,100 種)、一年草 (1,100 種)、ヨーロッパの高山植物の植えられた岩石園、針葉樹の丘などに分けられている。

「ラウンドタワー」

ラウンドタワーはコペンハーゲンの中央に位置し、ヨーロッパで最も古い現役の天文台。 1642 年、クリスチャン 4 世王によって天文観測所として建てられた。高度な建築技術を使用して建てられた、当時を代表する傑作建築物で、今も市内で最もすばらしい建築物の一つとされている。1861 年まではコペンハーゲン大学の天文学研究所だったが、今は誰もが楽しめる文化センターになっている。

塔の高さ 34.8m、内部中央の柱を中心に螺旋状に7回転半にもなる通路の長さは 209m。屋上が展望台になっており、眼下にコペンハーゲンのまち並みをぐるりと見渡すことができる。









タワー外観

入口

案内パネル

まちを一望

中階部分には図書館を改装したホールがあり、期間限定の現代美術展や科学展、地元の学生による作品展などの展示や地元ミュージシャンによるジャズやクラシック、フォークコンサート等が毎週開かれている。

一番上のフロアには望遠鏡があり、冬には天体観測所が公開され、夏の日曜日の午後には、

通常ここから太陽望遠鏡を使って太陽を観察することができ、指定された日の夜、星を観 察し、遠くの星座について天文学者の卵と一緒に学ぶことができる、天体観測イベントが 開かれている。

塔の中心は吹き抜けになっていて 25mの位置に強化ガラスの部屋があり踏み入ることがで きる。数か所に設けられた休憩所にはさまざまな作品が展示されている。

太陽が中心の天体モデルは、1740年の古いモデルを1928年に差し替えられたもの。











ホール改装中

天体モデル

Trinitatis 教会と隣接し入口がある。1656年に学者や学生向けの教会として建てられ、美 しい礼拝堂は一般公開されている。

1716年、コペンハーゲンを訪れたロシアのピョートル大帝が馬で、エカテリーナ妃が4頭 だての馬車で螺旋通路を駆け上ったといわれている。

タワー建設時から残るトイレは、現在は使われていないが、中に入って座ることができる。 別階の図書館によく来ていた童話作家のアンデルセンもよく利用していたのではないかと 言われている。









Trinitatis 教会

絵にかいたような美しい装飾







パンフレット

所見:自由に散策できる日常の暮らしの中に、歴史的な建物や人物像等、また神話や童話 の世界が広がっている。"ヨーロッパ最古の"や"世界に誇る"などの建物や技術が大切に され、人々の手を加えながらまた新しいものも生まれている。そのデンマークは、日本に 学ぶことがたくさんあったといわれている。2017年のこの年は、日本がデンマークと修好 通商航海条約を締結した 1867 年からちょうど 150 周年を迎えた。150 年前から長きにわた り友好関係を育み、日本の良さを取り入れながらデンマークの"まち"や"社会"への影 響は、少なからず与えられていることだろう。デンマークが重んじているものをしっかり と得て、福岡のまちにも発信しながら反映していきたいと思う。

11月14日(火)8:00~11:00

・森の幼稚園「Skovbørnehaven Koglerne」(スコーバネハーベ コーラネ) ホースホルム市(首都コペンハーゲンから北に約20Kmのところに位置する) 住宅地と美しい森の中にある幼稚園「Koglerne」は、"森"自体が幼稚園になっている。ま さに自然が園舎。

『1950 年代にデンマークで Ella Flatau (エラ・フラタウ) という一人のお母さんが 森の中で保育をしたのが始まりとされている。スカンジナビアからドイツにも広がり、 ドイツ国内だけでおよそ 300 ある。

1954年に、デンマークで親グループが自主保育活動として開始した。同国やドイツでは 1990年代から 2000年代にかけて広がりを見せ、同時期に日本にも知られるようになった。 2000年のデータではデンマークに 60 園、ドイツに 220 園以上存在した。日本では 2005年から毎年「森のようちえん全国フォーラム」が開催されている。 2008

年11月、「森のようちえん全国ネットワーク」設立。』(Wikipediaより)



森の幼稚園の園舎



園舎入口



園内遊具



森の中へ



森の道



馬の糞を踏まないように…

訪問したこの日は、生憎の小雨で肌寒かった。しかし、森の手前の園舎には子どもたちが揃い、森へ向かうための準備を淡々と整え、元気に "森"へと出発。その後を私たちは一緒に付いていった。

子どもにとっても先生にとっても、もちろん園へ送ってきた親にとっても多少の風雨や雪 は関係ない。元気いっぱいの笑顔で友達や先生との会話が弾む。

森へのコースはいくつかあり、その日の状態などで選ぶ。馬の糞に気を付けながら(子どもたちは全く平気)約 500m 15 分くらい歩いたところに小さな丸太小屋を中心にして、屋根ありや屋根なしの焚火ができる場所や丸太の遊び場、道具置き場、登ることのできる木、木に設置したブランコ、コンポストトイレなどなど、子どもたちにとっての秘密基地のよ

うな宝の場所が広がっている。







保育の部屋

二人入れるトイレ

道具置き場

ここで楽しく一日を(8~16 時までが園の時間で、8 時半~15 時半までを森で)遊びながら過ごす。お昼寝はない。

私たちも、この場所で説明を受け、じっくり 2 時間ほど過ごした。眼に映るものは全てが本物で関わる大人もプロとして、この日の16名の子どもたちの様子をしっかりと見ている。



アネッテさん (右)



熱心に説明してくださる



子どもたちのお弁当

説明:保育士 アネッテさん (40歳) ここでの勤務は3年目。(前は公立の園で勤務)

入園は、2歳10ケ月から、6歳で卒業。25人在籍(定員26人)

おむつが取れた子ども (親への希望として) とされている。

リストに登録して申し込む。早い順番で決まっていく。現在待ちがある。

スタッフは、有資格者4人、ヘルパー1人。

ボランティアスタッフもいる (デンマーク語を学ぶためにセルビアから来ている。責任 はない。)

保育士の人数は、国の基準はなく 10 人に 1 人が目安。会議の時などは 20~30 人で 1 人 の時もあるらしい。

ここは、**私立の幼稚園**。運営費用は、国からの助成がある。4年ごとに話し合って金額が 決まる。

利用者は、料金を少し負担する。高くない。(公立は無料)

園に通える指定された地域に住所がないと入園できない。

この地域は、経済的に安定し、余裕のある家庭が多い。子どもが生まれたら、この幼稚園に通わせるために、この地域に引っ越して来られる方もいる。

最後の1年だけ子どもをここに通わせるという方もいる。

仕事場が遠くなってもここを選び、車で仕事に通う方もいる。

スタッフの給与は、公立が高い。しかし、私立の方が自由度が高く楽しいとのこと。 保育士として少人数での運営をしている。みんなでそれぞれに自分の意見を出し合いな がら、日々の保育や運営のことなどを決めていく。スタッフとても仲が良いとのこと。

森のメリット

自然の一部に溶け込む。空気がきれい。病気が少ない。ケンカしない。遠足にいつでも行 ける。数人で別行動もできる。一人にもなれる。自由感が大きい。体を思いっきり動かす ことができる。精神的にも安定できる。









木登りできる木

毎朝、集合する場所でウォーミングアップの遊びを集団で行う。

その日によって担当は変わる。

この日の始まりは、日本でも有名な「幸せなら手を叩こう」の歌で体を動かす。

次は、歌に合わせて一人ひとりの名前を呼び、子どもたちは返事をする。これも子どもた ち一人ひとりの調子を察知することができる。

動物になったり乗り物になったり、おうちの仕事をしたりお出かけしたり、歌と一緒に動 くスピードを遅くしたり早くしたり様々な動きを取り入れ、楽しみながら体を動かして心 と体をほぐし体力をつけていく。

歌の内容も、洗濯やドライヤーはお父さんの仕事というように、男女共同参画の意識もし っかりと盛り込まれていた。

デンマークは、雨でも傘をささず、レインコート(カッパ)を着て行動する習慣がある。 雨の質も、日本とは違い乾きやすいとのことだったが、この日は結構シトシトと降り続け て、私たちは傘なしでは厳しかった。

保育士は、子ども一人ひとりの体調や心の状態を踏まえ、プログラムを日々変えるとのこ と。

子どもは一人になりたい時は、無理に集団で遊ばなくてもよい。自然の心地良い空間と見 守る保育士の寛容がある。

この日は、精神的に課題がある子どもたち 2 人が別行動をしていた。毎朝、自由に活動を 選択し、彼らにとって一番いい形をつくるように考えられている。少人数のグループで行 動できるということは、より一人ひとりにあった内容にできるということ。

5 歳になったら、自分の名前が書かれたナイフをもらう。じゃがいもの皮むきなどをして、 小さい頃からナイフを使い慣れることを体験する。

木は登るもの。ケガはするもの。

トイレ自由。コンポストトイレは、二つ並んで仕切りがない。お友達同士でおしっこをし ながら、楽しい話もする。男の子用は、自然界の木が「おしっこの木」としてあるそうだ。

発表会や運動会という日本のような見せる場はなく、祝い事や秋の収穫祭、クリスマスパーティ、ハロウィンのようなイベント、芸術展示会などへ親も参加し、全て一人ひとりの子どもの成長や状態を大切にした内容。

卒園式は、やはり日本のような形ではなく、一人ひとりに森の中のスペースを準備し、そこにそれぞれが自分の夢だったり思い出だったりの絵を表現する。そして、一人ひとりの肩にブランケットをかける儀式みたいなことをする。

デンマークの子どもたちも、日本の子どもと同じような夢を持っている。

子どもの体力の向上、コミュニケーション能力や五感を磨き第六感を働かせる力を生みだすということが、自然と共に過ごすこの森の幼稚園は、一般の幼稚園にとても高い効果があり、わざわざ引っ越してまで通わせるということも納得できる。このような場所は、足りていないとのこと。







シカ、イヌ、ウマなどが来るために周囲には柵がある。 森の中でのびのびと遊ぶ。

所見:説明をしてくださったアネッテさんが子どものころは、母親は専業主婦だったそうで、今は時代が大きく違って共働きの家庭が多いとのこと。通訳の方(32歳)の中学生時代からも、周りに専業主婦の家庭は珍しいくらいだったとのこと。デンマークでも、共働きや晩婚化が進む中で日本と似たような社会変化や課題は起きてきている。

保育や教育、福祉の状況は、人の働き方の問題も大きく関わり連動している。

人口減少に向かう日本が、持続可能な社会となれるのは、人をしっかりと育てることだ。 いち早く課題に気づき、今から何をしなければならないのか、答えが直ぐには出ない教育 には時間がかかるだけに、直ぐにでもできることを取り組む必要がある。

子どもたちへの保育や教育という人を育んでいく環境は、デンマークの環境とは違っていても、ハード的な学ぶ場という環境は整っている。それが違うだけにソフト面で、もっと子どもたち自身が生きる力を培うことができるように環境を整えていかなければいけない。いじめや不登校、若者の自殺。発達障害の問題は、ソフト面の改善が本当に急がれると思う。

さらに、何れ社会を担っていく存在になる大切な子どもたちに、デンマークのような自己 決定や話し合いという民主主義の根幹を幼児段階から自然に学び取れる環境が必要。

今の子どもたちが大人になった時に、今社会の抱える問題がもっと大きな問題となって取り返しがつかないようにならないためにも、この自然豊かな空間で、子どもに主体性を持たせる教育が行われ、持続可能な社会をつくりだしているデンマークの良いところを、できることから取り入れ実行しなければと思う。

11月14日(火)11:30~14:30

・国民高等学校「Grundtvigs Højskole」(グルントビィフォルケホイスコーレ) ヒレレズ市(首都コペンハーゲンから北西に約 40 kmのところに位置する)デン マークのシェラン島北部にある都市に所在する。(シェラン島ではコペンハーゲン、ヘルシンゲルに次ぐ第三の都市)







デンマークのルター派神学者で、詩人でもあったニコライ・フレデリック・セヴェリン・グルントヴィによって創設された学校。政府から思想的に独立した私立学校。

ホイスコーレの理念 グルントビィ (近代デンマーク精神の父)

話し合って、聴いて、意見を述べて、社会に入って、賢くなって、勇気を出して、 世界に出てください。そして、ホイスコーレに戻ってきてください。

グルントビィの夢は「母国語を重視し、形式にとらわれない教育によって人格をはかる。そして、祖国の発展と国民の幸福を実現する場として公立の国民高等学校を創立する。」だったが、自身の手で実現させることはできなかった。彼の主張に共鳴したクリステン・コル等の尽力により、私立の青年教育機関として発展していった。

※デンマークの教育は、全ての公立学校の経費は国と自治体が全額を負担し、学費は無料。大学においても、デンマーク、北欧諸国、EU 加盟国の国民であれば無料となる。私立学校にも政府(州政府)の補助を拠出している。私立は、国籍、宗教、民族とは無関係に入学可能で、国外からも多数の学生を受け入れている。この学校の費用は週4万円(8000kr)1/2は政府負担があり、個人負担は月8万円(16000kr)となっている。

説明: オーレさん (73 歳) この学校に歴史の先生として 40 年間勤められた方。ご近所に長年暮らしながら、ボランティアで学校案内をされている。2~3 年前、日本の京都や広島にもいらしたとのこと。







教壇でのレクチャー





グルントビィを紹介するコーナーがある









スタッフ(教師)紹介掲示板

寮入口

寮個室

デンマーク国内に現在は70ヵ所ほどのホイスコーレがある。

学ぶ内容は、大きく3つに分かれている。

- ・人文系(文学、語学、心理学、哲学、ジャーナリズム、トラディショナルなど)
- · 体育系(運動、運動科学)
- ・芸術・デザイン系(絵画、音楽、陶芸、建築、フォト、ペインティング、グラフィックデザインなど)

さらに最近は、福祉、クリーンエネルギー、環境、国際平和、難民問題などの新しいテーマも追加され、各校それぞれに特徴がある。







オーディオやフォトなど芸術専門の学習室

廊下壁に生徒たちの作品展示

ホイスコーレは郊外にあることが多く、自然豊かで自由な時間も多い。落ち着いた環境の中で自分を見つめ直せる場所。また、仲間や教師等とのコミュニティ豊かな環境があり、創造性の育ちを伸ばし、プロフェッショナルな人材を生み出す。専門的、献身的で鋭い教師(教師も)が、学生との対話を大切にしている。一人ひとり、または全体の意見を聞き、話し、学生たちは自分を知り、社会や文化を深く考え自分の道を選択する。教師と生徒間の強い信頼関係から、自信を持ち勇気を出して社会へ踏み出していける。









中庭が見えるくつろげる場や自由に使えるテーブルやソファがあちこちに置かれている

試験や成績の評価は無い。年齢や性別、国籍に関係なく誰でも入学できる。自ら学ぶ、「学校は人生そのもののための学校」ひいては社会をよくする。成人(青年)の学校、日本では専門学校、専修学校のようなところだが、費用のかけ方や手厚さには違いがある。

この学校のシステムを考えた背景には、社会状況がある。社会をつくってきた歴史を知ることが重要であるとされていたとのことで、オーレさんは、自由・平等・友愛を勝ち取った市 民革命といわれるフランス革命に遡り説明された。

『ブルボン朝の絶対王権に対する貴族の反抗に始まった暴動は、1789 年にフランス革命勃発となり、政治体制は絶対王政から立憲王政、そして共和制へと移り変わった。1830年7月革命、1848年2月革命となったフランス革命は、世界各国に非常に大きな影響を及ぼした。

1848 年 2 月革命以降、デンマークでも民主化の要求が高まり、1849 年には憲法が制定され、1866 年、第一次世界大戦開戦の翌 1915 年 (女性の参政権)、1920 年、1953 年に改正されていった流れがある。』(Wikipedia 参考)

デンマークが戦争に破れて荒廃した国土を、短期間のうちに豊かな農業国家へと立ち直らせた歴史がある。

農業立国デンマークの苦難の歴史

『18世紀までのデンマークでは、農民は地主の下に隷属させられ、過酷な労働を強いられていた。1784年にフレゼリク6世が父王クリスティアン7世の摂政となり、農民解放・自作農化・農地改革を実行した。1848~50年、1864年の二度にわたってプロシア、オーストリアとシュレスウィヒ州・ホルスタイン州の両州をめぐって戦争となった。この戦争に破れたデンマークは両州を失い、史上最少の領土となった。

残された土地の開墾事業を行い、また従来の穀物生産から酪農へと農業形態を転換し、協同組合活動等を通じてデンマーク農業の再生に成功した。さらに産業革命によってデンマークは近代産業国家への道を歩み始め、1870年前後から輸送・貯蔵手段の発達・低コスト化によって、アメリカ・オーストラリア・カナダ等の諸国がヨーロッパの穀物市場に参入したのを契機に穀物価格が下落したため、1870年代から80年代にかけて政府や識者の指導のもと、農業経営の比重を穀物生産主体から酪農製品主体へと転換。』(日本デンマーク-安城市歴史博物館参考)

日本では貧しく虐げられがちであった農村・農民が、デンマークにおいては人間として豊かな生き方を実現する場として農村が機能していた。

国民全体の約1%に過ぎないエリートだけが大学へ行けていたそうだ。他はホイスコーレのようなところでの学びだったとのことだが、デンマークの教育制度は非常に高度な水準にあり、農民は欧州において最も教養が高いとの評価があるほどで、教育が国の農業を支えるものであったとのこと。

元の教育は、最長7年間の14歳までしかなかった。それでは足りなかった。 民主主義ということを、国民は深く理解することが必要だった。 民主主義=平等 国はどうあるべきかに国民は参加する必要がある。

この流れの間の 1844 年にデンマークで初のフォルケホイスコーレが設立され、20 年後には ほとんど全国に普及したとされる。1913年には79校に増えた。

そして、1968 年教え方の革命ではないかと思われる節目があり、現在のような内容となっ たそうだ。

このような教育機関が、多い時で 100 ヵ所ほどもあったからこそ、平和な社会になれた。 現在でもこの社会と歴史について知る必要があるため、学校では政治家に話してもらって いるとのこと。

今の若者はラッキーで、海外も経験できるとのこと。

(生徒たちは、研修旅行のモロッコから帰ってきたばかりで、部屋の前には旅行 の荷物が置いてあるところもあった。訪問したこの日は火曜日で、掃除の日と決 まっていて、全員疲れた顔はなく楽しそうに校舎内のお掃除をしていた。)

説明くださったオールさんの子どものころは、日本の教育と似ていたそうだが、教育改革 と共に、生徒が疑問に思うことを質問しだし、先生としての価値がなければ尊敬はされな い。体罰を与えれば教師は逮捕された。生徒は意見を出す場があり、学校の運営にも関わ る。誰かが一人では決めない仕組みが確立していった。

以前は、アルコールはダメ。男女の住まいは別で、夕方以降は絶対に会わない。これが、 米・仏・独からの影響があり、教育現場も変わっていったとのこと。

現在は、社会人としてのモラルがあれば、アルコール OK。男女交際 OK。ルールは、授業を 受けること。

このように全ての学校が変わっていった。学校や企業で民主主義が実践されていった。 家庭が最後まで変わらなくて、男性が全て決めていたそうだ。1968 年は女性の教育も大き く変わったとのこと。女性の自立が進み、離婚は増えたそうだ。

現在、この学校も女性の方が 2/3 ほどを占める多さ。女性はモチベーションが高いそうだ。 "因みに"の話では、博士、犯罪者は、なぜだか男性が多い、リスクを犯す性質があるの だろうかと話された。



講義の部屋





共有スペース等には絵画が飾られている



図書室



図書室の学習スペース 体育館





基礎はすでに学んだ人が来るところだから、ここは基礎の学習はせず専門的なことを学ぶ場所。人気となる内容を準備し、そこに生徒が集まる。政府が強制するようなことはなく、毎年内容は変わる。今はデジタル系がとても人気。

大学で何を学ぶべきか、ここを経験してそれぞれが自分で決める。何度も選べる。ホッと する時間を持て大切な経験ができる場所。

このように十分に学ぶ機会があることと裏腹に、デンマークでは大学を卒業するのがおおよそ28歳と年齢が上がる。このようなことに対し、もっと早い段階で社会に出てほしいと考えだした政治家もいるとのこと。しかし、学校は生徒たちに、旅行に行ったり海外でボランティアをしたりと、様々な経験を通じて人生を豊かにしてほしいと考え、このシステムを守っていくとしている。デンマークは英語に近いので、世界各国で仕事ができる可能性がある。実際に海外で活躍する人は多い。







全員が入れるランチルーム自分の食べたいものセルフで準備

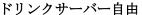
話し合う場になる

この日、ある教師の子どもさんが微熱を出し学校を休んでいて、この職場に連れて来られていた。日本では考えられないが、日常のことのよう。一緒にランチをした。

食事が終わったころ、全員注目して、その日の出来事や運営に関してなど、ランチルームは意 見や感想を出し合う場となる。

後片付けもセルフだが、キッチン内は衛生面に厳しい政府の基準があり、専門スタッフしか入れない。







ランチの食器置き場



キッチン

質疑応答

- Q. 政治家が話しに来るのは、教育の場で大丈夫なのか?また、日本では先生の権威主義が強くあるが、
- A. 話のベースは、差ほど偏らない。基本は大きく変わらない。学生も大人の考えを持つので問題はない。投票行動のヘモチベーションを与えることが重要。

先生や政治家が偉いわけではない。同じ国民として話を聞く。農業・農民を大事にした社 会のつくりが違うのではないかと考える。

しかし、難民問題に関しては比較的タブーな状況がある。憲法も両論ある。 小国だから、政治家を呼びやすいということはある。

- Q. 思想をつなぐにはどうしているのか?
- A. 国全体に民主主義があるから、常に実践する場となっている。

しかし、デンマークでも農民が減った時期が 10 年くらいあり、学校が潰れてもおかしくなかったが、ここが必要とする学生が来るから続いている。

- Q. 北欧5カ国の方向性とその差については?
- A. 国が国民一人ひとりのことを大切にする、プロテスタントの考えを持っているから、その差はあまりない。
- Q. 就業のミスマッチはないのか?
- A. デンマークも良くあることだが、その結果様々な仕事が人々の豊かな経験になる。(失業保障が充実している)
- Q. 日本は自殺を選ぶ人がいる。そのことをどう考えるか?
- A. 勉強を済ませるのが早いのではないか、もっと時間をかけることが良いのではないかと 考える。
- Q. 貧困の連鎖はあるのか? (救済制度はある様だが)
- A. 悪循環はあるが、多くはない。

別の課題として、長く学ぶから(特に女性の方)出産平均29歳と遅くなっていることがある。母親は看護師だったが専業主婦になった。現代日本の女性への期待は、少々問題と考える。

- Q. ここで長年ボランティアを続けられている魅力は?
- A. 以前は公立高校の教師で、カリキュラムが決まっていた。ここは自由。試験も成績もないから楽。学校に関わると人生において幸せ。贅沢を感じている。

所見:革命が繰り返し起こっていった歴史の流れは社会に大きな影響を与えている。そのことが、デンマークの教育現場からあらためて具体的に見えた。外交協力 150 年の間に、日本もデンマークの教育面での影響を受けてきたが、教育への費用のかけ方が違う。また、個人の自己決定力や自尊心を育てる教育、子どもたちが自ら持つ力を引き出す教育をすることにもっと趣を置くべきと思う。そのための教育者や専門家となるプロフェッショナルな人材育成に、もっと力を入れていくこと、そしてその人材が働き続けられること、力を発揮できる環境をつくることの必要があると考える。

2018 年 1 月更新国連統計に基づく世界の人口 1 人当たり名目 GDP 国別比較統計・ランキングは、デンマーク 14 位、スウェーデン 16 位、日本 29 位

人口減少に向かう社会を持続可能な社会にするには、質の向上が不可欠である。

11月14日(火)16:00~17:30

・STU 特別アレンジ若者教育学校

「Hans Knudsens Instituttet HKI—STU Særligt Tilrettelagt

Ungdomsuddannelse」





HKI-STU 外観 (Google より) 正面突き当りが HKI-STU

住所: Glentevej 67 - 69 2400 København NV

フォルケホイスコーレ (ヒレレズ市) から、首都コペンハーゲンに戻る形で電車を使って約1時間半移動したところに位置する。4階建ての大きなビル。

HKI は、国営の障害者の就業・就学支援センターとして、STU は、特別アレンジ学校。 仕事や教育に就くことができない特別な問題を抱える若者のために、とても充実したスタッフ体制で支援を行う。

若者を就労や自営業ができるまで成長させ、職業的、個人的、社会的発展のために、ここに通う学生を全面的にサポートする。国内に 10 ヵ所ある。

1872 年、ハンス・クヌーセン(Hans Knudsen)(1813-86) 牧師は、多くの身体障害者の子どもたちを支援する協会を慈善事業として設立。仕事を通して完全にまたは部分的に支えられる日までの援助を提供することが目的にあり、雇用政策の取り組みに積極的な役割を果たす。

公立学校のシステムが不十分な部分があり、医療援助や訓練が必要な子どもたちに、 学校教育の継続を助けることを意味していた。学校としてではない形であったが、 ワークショップ等で見習いとして専門教育を修了する機会となっていた。

協会は、このような国民の健康や教育、社会的課題の解決をするため、社会や家庭が不自由の障壁であって果たした。この慈善事業の機関が公的義務となるまでには61年がかかっている。

HKI は 1980 年以来、障害者の雇用を増やす努力、教育、支援、保護雇用という形で能力と資源を促進することを専門としている。

ハンス・クヌーセン牧師と彼の初期の補佐官(身体障害者)の、この社会政策の取り組みの姿勢には、障害者の能力と機会を十分に活用することを支援するという目的だけではなく、**人を孤独にさせてはならない**との強い理念が根底にあった。

(HKT HPより引用)

定員:70~80 人 20~30%は、就労活動に出ていて、校内では 50 人くらいが活動している。

説明: 先生、学生のフレドリックさん、アンドレアスさんが同行

「不幸な人を一人も生み出さない」そのために特別にアレンジした教育機関。

特別に組織された3年の教育プログラムがあり、16歳から25歳までの特別なニーズ(身体的、精神的または社会的な性質の障害)を持つ若者が、この教育を受けることができる。

・身体的、精神的または社会的な性質の障害とは…

【心理的困難(不安やうつなど)、発達障害(自閉症や ADHD)、発達抑制および一般的な学習の困難、職業性脳損傷など(脳損傷と社会科学のスペシャリストコンサルタントなど、神経心理学者、ソーシャルワーカー、ビジネスコンサルタント、理学療法士、神経感覚器からなる学際的な脳損傷チームがある)】

民間企業や公的企業と密接に協力して、実際に職業訓練を受けられるようになっている。この教育を受けることで、自分の夢や具体的な目標を見つけることに繋がり、また将来の可能性を広げる。短期(2週間)または長期間(1~2ヶ月でも良い)のインターンシップは、学生たちの実生活において、新しいチャンス、能力、経験、勇気、自信を与える。企業においては、社会的責任や社会貢献に繋り、また労働環境を良くしていくことにもなり、従業員のモチベーションと仕事の満足度の向上が促進され、社会にとっても個人にとってもプラスとなる。これは、障害者支援の分野と、労働市場との結びつきを達成または維持するための目標との間に相乗効果を生み出す、相互訓練的な取り組みとなっている。

個人と企業のマッチングを行う、働く側も雇用する側もお互いに訓練を重ね、適切な仕事なのか働き続けられるのかなど、確認しながら指導や管理を行う。

トレーニング→ボランティア→就職

就業が決まった後は、定期的にフォローアップして終了する。

いつでも本人の意思により、就業を中断することができる。

マッチングは難しい。就職率は、50~60%(ボランティア含む)

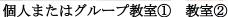
HKI からインターンを受け入れる雇用者の間の満足度調査では、HKI から受けた指導・支援に非常に高い満足を示し、このような機会を希望している。大企業は、障害者を雇うことが義務付けられている。HKI 協力以外の企業でも実践することができる。

費用の負担は、学生はない。州政府の負担で、働けない国民は年金で現実的に生きていける仕組みがある。障害の診断・証明等、政府との対話で決定する。

クラスは、学年、症状的、興味的に分けられ、少人数で構成される。

タイプに応じた部屋の作りで、落ち着いた雰囲気や元気が出るようにカラフルな部屋もあった。日本語のクラスもあり、同行した学生が日本語クラスとのことで、ひらがな学習の様子を実践しながら伝えてくれた。









ひらがな授業のパソコン画面

先生 13~14 人 (特別な経験がある先生)

基本的には、チームで編成されている。これらのチームはそれぞれの専門分野で構成され、 その能力が常に活用されている。

- ・ビジネスコンサルタント/雇用コンサルタント
- ソーシャルワーカー
- ・教育スーパーバイザー
- ・理学療法士および作業療法士
- ・心理学者(神経心理学者を含む)
- ・メンタルヘルスカウンセラー
- •特別講師/特別教育
- 認定メンター
- ・プロの作業員
- ・ペタゴー

などが配置されている。(Pædagog:ペタゴーとは、Social Educator:社会教育指導員と 訳される資格であり、デンマークでは、保育園・幼稚園・学童保育などに就業するために ペタゴーの資格を取得することが求められる)

学生たちは、インターンとして職場体験をする。社会に出て自立できるように生活の基本・ スキルを学ぶ。

精神的課題のある生徒は、一日の行動計画スケジュールがあり、先生と共に確認しながら 一日を過ごす。



精神的課題がある学生の部屋



個々人のスケジュール 学生たちの作品





気持ちを落ち着かせる部屋



静かに過ごせる部屋



芸術的オブジェ



くつろぐスペース



自由に使えるスペース



ゲームができる部屋



サッカーゲームや卓球で体を動かすスペース







引きこもりがちだった学生には、肥満の問題があるため、トレーニングルームがある。 フィットネスには、プロの専門家がいる。一人ひとりに合った運動を指導する。

薬で治療をしている、また非常に疲れている学生もいる。全ての学生が引きこもらないようここに登校することを目的としている。ここに来ることができれば、人が支え人と関われる。友人もできて、中には人生の友と言えるような関係をつくれた学生もいる。

フレキシブルな計画をたて、登校できるようなサポート(移動支援員が同行したりタクシーを利用したりできる。スクールバスもある。)を工夫する。

支援の目的は、自分でできるようになるため。

STU での教育は、学生の希望と機会に関するものとして、学生の教育は一人ひとりに合わせて調整される。

フレキシブルな教育

特性を活かし職業教育の専門職レベルを上げる必要がある学生のための教育。

労働市場で働くために、自己理解と個人的、社会的スキルを身につける必要がある学生の ための教育。

様々なニーズのある学生に対して、学びたい、新しい人に会う、新しいものを試すという 希望を目覚めさせる機会が与えられるよう組み立てられる。

実践的な方法としてワークショップを行い、学生それぞれのニーズを掘り出していき必要なことを一緒に考える。

授業やワークショップ、訓練、レジャー活動等を通じて、伴走し一緒になって考え活動することに元気や勇気が備わってくる。学生たちは地域社会の一員となり、新しい人間関係を築くこともできる。

就労生活や教育の後にどのように変化するのかにも着目されている。

競争があった方がいいのかもとの議論もある。

学生への満足度調査では、非常に満足35%、満足45%、この両方を選択20%、不満と非常に不満0%となっている。

HKIのSTUは柔軟に8つの柱に組み込まれている。

- ・学問科目 デンマーク、数学、IT などの科目
- ・個人の主題 例えば、自己理解、習得、指導
- ・社会科目 例えば、ネットワーキングや仲間
- ・インターンシップ HKI のビジネスセンターと企業での実務
- ・面白い科目 例えば、日本とアーチェリー
- ・一般教育科目 例えば社会科学と労働市場知識
- ・コミュニティとレジャー 学生のアドバイス、クラブの提供、スタディツアー このような、フレキシブルな構造は、学生が教育活動中の適切な時期に自分自身の可能

性や進路に気づき、自分に必要とするスキル等に正確に集中することができることを導き出す。

・IT 教育 - 開発の才能

自閉症や若年のアスペルガー症候群には、特に関心があり、ITの才能がある。

IT 教育に関する TEC (技術教育コペンハーゲン) と協力して提供されている専門教育プログラム (IT 教育) を選択できるようになっている。

IT プログラマー、マルチメディアデザイナー、Web インテグレーター、IT サポーター、コンピュータ技術者としてのさらなる教育を受ける。

簡単なプログラミング、Web デザイン、IT テストにおける IT 企業の仕事や IT サポーターなどの IT 部門の仕事がある。

中には、大学院のコンピュータープログラマーとして働く可能性を秘めた学生もいる。

これらの科目を選択し、学生のニーズに合った独自の教育を設計する。





パソコンルーム

人間全体に焦点を当てる

HKIでは、個人的、社会的に若者を育てる科目を準備し、身体と心の両面のサポートをしながら、実際に働くことを経験することや働き方等の教育を通し、人間全体に焦点を当てている。学生は、自己管理する方法を学ぶことができる。

障害を持つ若者にとって、実践に入るのは大きな課題かもしれないが、このようなサポートと経験の積み重ねで、それぞれが望むものを見つけられることが期待される。

そのためには、自らが望むビジネスを選択する興味や意思が生まれ、学生たちにとってここが快適である場所であることが重要とされている。

多くの異なる企業と協力している。実際には次にあげる企業。

オンライン作品: Gameworks、DanaWeb、Dwarf、Media Workshop

図書館とジャーナリズム: POL-foto、CBS Frederiksberg、Nrrebro 図書館

動物と自然:世界的なペット、ボニー動物センター、動物保護、キングスガーデン

スーパーマーケット: Irma、Føtex、Kvickly、Super Brugsen

小売:ファラオ葉巻、シルバン、いとこBR、オリビアフラワー

子供と高齢者:ミッドガード、クラスター、コレクションベラ

その他: Tivoli、DR市、デンマーク映画協会、デンマーク赤十字、Folketinget 等々

HKI の**ワークショップ**も様々なものがある。

メタルワークショップ、キッチン/食堂のワークショップ、サービスと輸送のワークショップ、オフィスと IT センター、段ボール工場、マルチ・モンタージュ・ワークショップ、キングスガーデンとキャッスルホール

活動として、ビジネスや教育機関でのインターンシップ/HKI の内部ビジネスセンターでのインターンシップ/ビジネス訪問とミニトレーナー/ソーシャルワーカーによる会話と調整/理学療法的指導/身体運動と個別訓練プログラム/心理学者との会話/痛みの管理、ストレス、不安、代償性認知運動、リラクゼーションとマインドフルネスなどの授業をマスターする/求職、労働市場、社会的条件、健康に関するテーマ教育

他の STU とサッカーの試合など交流がある。

全ては働くことに権利があると考えられ、Hans Knudsen Institute (HKI) は 100 年にわたり、全ての人が就労する機会を得るための活動を続けてきた。全ての人々が、労働市場と社会の中で発展し価値を創造できる資源を持っていると信じて実践されてきた。働く人生は、自尊心を高め、個人の生活の質を向上させるのに役立ち、独立・自立生活ができること、また社会的コミュニティの一員となる。個人も HKI も労働市場も、社会貢献に繋がり、幸福度の高い社会をつくっている。

所見:「不幸な人を一人も生み出さない」この思いが形になった教育の現場であると感じた。 同行してくれた学生二人も、イキイキとした表情で、自分たちの日頃の様子を私たちに伝 えようとしてくれていた。

日本でも障害者の就労の場というのは、当事者が始めることが多々ある。親亡き後を心配して我が子のために生きるすべを準備したいとの思いから。しかし、デンマークでは、半世紀以上の年月がかかったが、障害者が働くことを社会の改革につなげた。そして、どの立場にとっても社会への貢献を果たせる仕組みとなっている。専門的な人材も豊富で一人ひとりの質が高い。政府の負担により、サポートもかなり手厚い。質の高さが、また新たな質の高さを生み出している。

税金をこれだけかけ、個人への負担を負わせなくても、社会全体から貢献する人や企業を 生み出していることやハンディがあっても生きがいを感じて生きられる社会を、現実のも のにしている。正に持続可能な好循環な社会で、国民は幸福度を高く持てている。

日本も、今後は人口減少で超高齢化社会に突入する。障害者も増えていく。決して右肩上がりの経済ではなくなる。

公正な人への投資無くして、人への心ある対応無くして、質の高い人材は生まれては来ない。子どもの貧困が叫ばれる昨今、一人ひとりを大切にした社会づくりを、経済格差、教育格差の是正を、先進的な国をお手本にし、早急に実行するべきと考える。

子どもや若者が自由に夢や希望を持ち、実現でき、また失敗しても何度でもチャレンジできる社会をつくり、一人ひとりの可能性を引き出す。その一人ひとりが能力を十分に発揮できるよう、全ての人が生きがいを持てるよう、地方でできることは地方で、企業ができることは企業で、個人でできることは個人で、できることから進めていくことが必要。できない理由を言っている暇はないと感じる。

11月15日(水)8:30~10:00

• 特別高校

「Gentofte Studenterkursus」(ゲントフテスチューデントクワセス)

住所: Hartmannsvej 22 2900 Hellerup

1964 年に設立された**私立高校**。 (私立はデンマーク全体の 5%と数は少ない。全国には 6校で、その内の一校)

デンマークの郊外にある Gentofte(ゲントフテ)地区の Hellerup(ヘレラップ)に位置する(デンマーク市街から 6 kmほど北)**小規模**な学校。







校舎外観

説明:リースホーケー校長、レッケライケ副校長(社会学、バイオリニスト)







教師:30 人、教師以外のスタッフ 6 人(校長、副校長、IT、専科、マネージャー、清掃) 高いプロ意識

学生が希望を果たし成功するための幅広い教育提供を行う。教育とキャリアのための最善 の前提条件を提供する。

学校運営の透明性や学生に対する平等および敬意を重要な価値としている。

生徒:230 人

広い年齢層の若者 17~28 歳がいる。平均は 20 歳。

入学のためのポイントは、義務教育9年間終了、もしくは10年生プログラムを受けたものから、一度就職し失業した25歳以上まで幅が広い。基本的に各クラスには28人未満(通常教育は28~30人)で、特別なニーズを持つ誰であろうと、適切で十分な教育を受けることができる。手話通訳がいる教室もある。







教室

音楽ができる教室

個室

4つのコースがある。

①STX2 年プログラム (9 学科) (通常教育は 15 科目。2018 年から 10 科目になる。)

ストレスをなくして学問に集中できる環境づくりをしている。24人クラス。

わずか2年間で希望する大学院学位の能力と可能性を取得できる。

義務教育から直接来る人、旅行した人、軍人になった人、高校を中退した人のために、 STX (一般的な中等教育) の準備がされている。

英語 A&社会学 A、数学 A、化学 B&物理 B、STX ビジネスの 3つの分野がある。

学習分野:英語 A および社会科 A

このコースは、言語とコミュニケーションに興味があり、グローバルな世界の社会構造 と文化に関する知識を強化したいと考えている学生のための分野。英語に関しては、高 いスキルを得ることができる。

研究分野:数学A、物理Bおよび化学B

この科目は、科学科目と思考に取り組みたい学生のための分野。科学知識を高め、世界が直面する課題、例えば気候、環境、持続可能性などを理解し、技術開発などを発揮するスキルを得る。

物理学と化学は、世界がどのような仕組みかを、非常に小さな粒子から全体としての宇宙まで、より深く理解できるように組み立てられている。研究分野は、科学における全ての高等教育プログラムへのアクセスを提供している。

STX ビジネス

科目を組み合わせて資格が拡大する。 学習の過程は英語 A、社会学 A とマーケティング B と市場コミュニケーション C。また、イノベーション C とビジネス法 C のどちらかを選択する必要がある。両方にビジネス時間がある。

政府(文部科学省)が試験を実施しており、少なくとも3回の筆記試験と3回の面接試験を完了する必要がある。

以前に修士課程や修士課程の一部を修了している場合は、すでに修了した学位や単位を 申請し、修了した科目の教授や試験を免除される。

②STX3 年プログラム(進路に悩む学生、自閉症)

2年間の内容を3年間で行うコース。自閉症の学生はここだけ。15人クラス。

③HF2 年プログラム(高等教育試験課程)成人も対象としている

一度就職したが失業した若者や教育の過程で中断した若者を対象とするコース。

中等教育用の理学療法士、看護師、警察官、教育者、教師または放射線技師など、仕事の経験を得る機会がある。

延長されたHFを受講する場合は、高等教育を受けることもできる。

社会学-Bとメディア-C、生物学-Bと心理学-Cの2つのコースがある。

社会学-Bとメディア-C

社会科学とメディアのテーマでは、世界の現状と地域社会の視点での学び。

世界とその問題が映画やテレビを通じてどのように生み出され、どのようにメディアが 私たちの世界の姿勢や認識を形作るのかを学び、更に自分で映画を制作する。

社会科では、選ばれた問題が個人やより大きなグループの人々、そして社会全体に及ぼ す可能性のあることを学ぶ。政治的、社会学的影響などを研究する。

生物学-B と心理学-C

ストレス、うつ病、健康に関することの開発と進化など、生物学と心理学のコース。 心理学のテーマでは、人々がなぜ何を思って行動するのかをより良く知る。心理学的、 生物学的、およびより大きな社会における人と自分自身を理解することを学ぶ。遺産、 環境、文化などが人々の行動やアイデンティティにどのように影響するかを探求する。 例えば、発達心理学と人間が他の人の影響をどのように受けているかなど。

生物学は、人間のより深い理解を得るのに役立ち、体に及ぼすホルモンの影響を制御、 身体の代謝や神経系の仕組みについてなどを学ぶ。

卒業試験のみ行う。

④HF3 年プログラム (高等教育試験課程の身体・知的障害者対象)

2年プログラムを3年かけて行う。

Gentofte Studenterkursus は、当初は働く人の大学準備のための学校。現在は教育を受けていない人はいない。

当初、テニスアカデミーの学生が通う夜間コースがあった。スポーツ選手は夜間を利用していた。現在は、夜間は別の高校にあり、ここでは夜間は行っていない。

デンマークでは、職業訓練校から大学への進路変更を認める環境があり、選択の抑制はない。私立大学のトップをめざすこともできる。

通常教育に合っていなくても、就職希望者には中等教育に通う機会を与えることが学校の 目標。

学生の背景(病気や悩み、戦争 PTSD、家庭環境、DV 等々)には大きな違いがあり、学校は刺激的な多様性を持っていると捉えている。ここでは、実際の教授法とは異なる背景を持つ仲間と共に多くを学び、多様性と相互寛容の尊重を非常に重要としている。

普通&特別クラスで、今後も続けたい。もっと困難な学生を受け入れたいと考えられている。

私立ならではで、自由で学生のニーズに合わせやすい。学生それぞれが自由に夢を持ち、 その夢に焦点を合わせ学ぶ機会となる。

プログラム全てで、ソーシャル(社会性)トレーニングを行っている。

サイエンス (物理) など専門性を高める、プリティカル (社会実践) で社会性を身に着けるなど、成績より社会に出て自立できることを目的としている。

学生の評価:学校には、学生の全ての違いを抱えて全員を受け入れできる良い環境があり、 非常に熟練したとても素敵な先生たちが揃っていることなど、素晴らしい 3 年間に対して 感謝の言葉があった。(評判はいいが、小規模のため広くは知られていないとのこと。) **費用負担**:学生が負担する。収入によって決まる。費用負担は、まじめに学ぶ、直ぐに辞 めないということにもつながっているとのこと。

デンマークでは、こういった教育を受けた94%の学生が、高校または職業訓練校へ進学す る。(政府の目標は95%)

コペンハーゲンのような都市では、高校70%、職業訓練校25%、地方では、高校55%、職 業訓練校40%くらいの状況。技術職が減っているので、増やしたいと考えられている。

1850年~農民など私立の学校で学んだ歴史は、デンマークの私立学校(プライベートカレ ッジ)の伝統の一つでもある。それは、富の伝統とされており、個人が選択し何度でもチ ャレンジして道を決め力をつけることを可能にしている。

個人とコミュニティの尊重

個々の選択が最優先事項であるが、個人主義は決してコミュニティを犠牲にすることはな いと考えられている。学習を通じてのコミュニティは、「何千もの壊れない友情が毎年形 成されている」といわれている。これは教師から学ぶだけではないことを意味しており、 他の学生から学ぶべきこともたくさんあるということ。少人数クラスで、お互いに学ぶた めの最適で心地良い環境に皆で貢献する。友人関係は、貴重な人生のためのネットワーク になっている。

学校では、個人が持つ宗教上のベースも民主的な基盤となりうると考えられている。学生 は一人の人として、敬意をもって真剣に受け止められている。

メンター制度(民間企業に30~60時間の助成金が支払われる)を活用している。 心理士1人、カウンセラー1人(15週×2/年)

学生が、今困っていることをどうしたら良いか一緒に考える。一人ひとりのニーズに合っ た学びができるように相談を受け、話し合い協力する。



廊下等は広くとってある









学習や相談のしやすい雰囲気 で机や椅子などをレイアウト してある

学生の声が常に運営側に届き反映されるようにする学生協議会がある。

生徒と保護者は、理事会と育児機関を通じて関与できる仕組みがあり活発に利用されている。





視察当日は、ちょうど帰る頃に避難訓練が行われた。

所見:職業学校を選んだものの考え直して、大学に進路変更できる、失業しても、また次の道を見つけて、そこに向かうための学び直しができる、また「通常教育に合っていなくても」とあるように、制度として教育の場に若者の居場所がきちんと準備されている。そして、受験のための勉強ではなく自分の人生をどう生きていくのかという人生勉強の場であり、生涯学習の一貫である。教育の観点が日本と大きく違っていて、学歴重視ではないので若者の心に余裕が持てている実態がある。費用の学生負担もそれほど高い負担ではない。

日本において、高校等の進学率は 98%を超え、高校等への進学や卒業が、その後の進学や 就労においての前提条件という意識が強くある。そのような状況下で、高校等非進学や中 途退学といった早期離学者となれば、非正規雇用であったり居場所が無くてひきこもりと なってしまったりうつになったりと、社会的自立をしていくためには困難を抱えている状態となっている若者も少なくない。貧困の連鎖も叫ばれている。

このような中、個人や家庭だけで解決していくには社会的背景があり厳しい状況もある。 様々な点で社会的に支援する必要性があり、特に教育ということは、重要な役割がある。 当然のことながら、教育は人育てであり一人ひとりが自分の持つ力を発揮できれば、社会 を豊かにする。

ひきこもりが課題として挙げられ、対策のために内閣府が調査 (H22) した結果として、仕事や就職に関するきっかけによってひきこもった者が多かったデータがあり「職場になじめなかった」(23.7%) と「就職活動がうまくいかかった」(20.3%) を合わせると 44.0% となっていた。

若者支援等の対策が図られ、民間の力等も活用しながら進められて来たが、まだまだ課題はあり、孤立をなくして自立の支えを強化すること、就労につなげられる教育現場の変革が必要と考える。制度的なこともそうだが、子どもや若者を取り巻く人々が思いやりをもって見守る暖かい連携がもっと必要。幸福度の高い国の、高い人権意識を見習う必要性を強く感じた。

デンマークの学校体系

1. 就学前教育

就学前教育は、0.5 ~ 2歳児を対象に保育所で、3~5歳児を対象に幼稚園で行われる。また、6歳児については、国民学校の第0学年として付設されている就学前学級への就学が義務付けられている。

2. 義務教育

義務教育は、6~16歳の10年である。

3. 初等。前期中等教育

初等。前期中等教育は、7歳入学で初中一貫制の基礎教育として9年間、国民学校で行われる。また、進路の模索や成績向上などを目的に、予備学年である第10学年に任意で就学することができる。

4. 後期中等教育

後期中等教育は、普通中等教育を提供するギムナジウム(ヨーロッパの中等教育機関、高等教育への進学準備を目指す過程)のほか、普通中等教育とともに商業関連の教科を提供する商業ギムナジウムや技術。工学関連の教科を提供する技術ギムナジウムがある。いずれも3年制で、修了時の試験に合格した者には、高等教育への入学要件となる修了資格が授与される。また、ギムナジウムでは、国民学校第10学年修了者や成人を対象とした2年制の課程を経た者にも、高等教育への入学要件となる修了資格が授与される。

このほか、後期中等教育段階の職業教育機関として職業学校がある。職業学校では、1.5~5.5年(修業年限は職種により異なるが、多くは 3.5~4年)の職業教育プログラムが、企業等での職業訓練と並行して提供されている。

5. 高等教育

高等教育は、長期プログラムを提供する総合大学、中期プログラムを提供するカレッジ (Professionshøjskoler)、短期プログラムを提供する商業アカデミー (Erhvervsakademier) 等で行われる。総合大学では、3年で学士、2年で修士、3年で博士が授与される。カレッジでは、実務指向型の3~4年の課程を修了すると、学士又は職業学士が授与される。商業アカデミーでは、職業教育プログラムと企業での職業訓練から成る1.5~2.5年の課程を修了すると、修了証書が授与される。

11月15日(水)11:30~13:30

・小中一貫学校「Maglegårdsskolen」(マウルゴ―スコーレ)



図書室等がある校舎



上学年の校舎



下学年の校舎



広々とした校庭







自転車置き場



下学年の自転車置き場



遊具

位置する。

「Gentofte Studenterkursus」(ゲントフテスチューデントクワセス)から 600mほど北に 住所: Skolevej 1, 2900 Hellerup

108 年の歴史: 学校は 1909 年 11 月 1 日に完成。学校の初日は 11 月 3 日。最初の年には 220 人の学生がいた。1919年に最初の中学校の授業が行われた。生徒数が増えるにつれ教室を 増築し、1930年に学校の本館が完成。1945年まで戦争等の影響もあり、他国から押収され るなど激動の時代があった。

1995年以来、チームワークや学習方法の変更など、選択された分野で目標とする学校の開 発に取り組む。1999年、3つの「学校開発・発展プロジェクト(SKUB)スクール」の1つ に任命され、これにより学校での教育開発を強化し、実際にそれぞれの分野の実現を開始

開発プロセスは、学習の変化、子どもの変化、変更された教師の役割、新しい組織、変化 する物理的環境など。

2000年、新千年紀の始まりとして、学校内のすべての建物が再建された。改修も、自治体 の大規模な学校開発プロジェクトのパイロットプロジェクトとして実施されている。

さらに、新しい音楽家と新しいスポーツホールを導入し、全体の原則は、古い教育環境を、 日々の活動のための近代的な将来の学習環境にすること。

屋外エリアにも手を加えられた。2008年には、3面あるうちの中央のサッカー場に人工芝を入れ、2009年にはブリッジと丘の風景を設定し、大きなドーム型の彫刻が建てられた。

- ①多様な授業方法を引き出す空間
- ②子どもの居場所となる空間の多様性
- ③学習のための空間の多様性
- ④教師が常に生徒の学習をサポートできる空間構成の4つの項目で教育空間の特徴を持っている。

生徒:700人 先生、サポーター:60人

説明:ニルス校長(スクールリーダー着任2年半)→

子どもにとって学校は楽しい場所であること、幸せな人生を送るために勉強する場所との コンセプト。

子どもが問題ではなく、問題が問題であると捉え、皆で話し合い良い環境を選び計画をつくり対応する。

0年生クラス: 読み書きができるようになる。子どもたち同士がうまく付き合えること、聞くことができること、したことを反省し考えること、大人とも付き合えることなどを、10年間の最初の1年で学ぶ。スタートの重要性を話された。





チームでの活動に力を入れている…1~3 年生、4~6 年生、7~9 年生を 1 つのチームとしている。

1 クラス 25 人で先生は 1.5 人、8~16 時まで学校での時間を過ごす。

朝は一日のプログラムを話し合い確認する。目的をもって勉強する。一つの学びの中でも、 様々な方法で学ぶこと、体を動かすことなどを大事にしている。遊ぶことも大事。

4年生(ここ「Maglegårdsskolen」は3年生)までペタゴックたちが関わる。ペタゴックは、 先生とは違う、教育との両輪の片方として、社会性をテーマに引き出すために養成されて いる。クリエイティブな発想が得意。人間関係をしっかり見て、様々な面で支える役。0年 生と1年生には特に深く関わる。一人ひとりを知ろうとし、本人と話しつながる。決して 上から目線ではない。

①成長に応じた学習において

重要なのは将来のため。チームで活動することは、社会とつながること、自分を知る、 自分の立ち位置を知ることなどが育つ。それが、将来独立して仕事ができるよう、またク リエイティブな仕事ができるような人材になる。

20 年後のことをわかることは難しいが、他人と協力することの大切さは時が経っても変わらない。その力をつけて、地球の問題解決のために必要なスキルを与えることが学校の 役割。

グループ活動では、グループ内での対話を通してモチベーションを大事に進められる。 チームへの貢献を学ぶことは、社会への貢献につながる。

②責任を持つということ

人権、特に子どもの人権について、ユニセフの活動と共に学ぶ。貧困の国への支援をしながら相互理解を深める。そのようなことを通じて権利と義務を学ぶ機会とする。

生徒として良い教育を受ける権利について、皆でその意識を共有する。

将来とは子どもたちのこと。

世界で活躍できるように、スキルや知識を育てる。

1年生クラス→





高学年生グループ学習の様子







子どもたちは皆違う

子どもを中心に置き、様々なニーズ、専門的なレベルと学習方法を考慮に入れ対応を図る。 子どもが学校に適応できない状況であれば、適切な学習プロセスを作り出すために、どの ように子どもに向き合うことができるかに焦点を当てている。

子どもの視点と子どもの経験を重視している。

分化教育

分化教育は基本原則。以前は教室が統一グループとしてのクラスに基づいていたが、現在は、子どもの様々なレベル、学習スタイル、知性に関しての学習プロセスを組織している。 子どもたちは独立して、または有意義なコミュニティで活動し学ぶ。

プロフェッショナリズム

子どもたちが役に立つ知識を身につけるように、適切なバランスで能力の養成と技術の訓練に焦点を当て、スキルと能力を上げる。

教師の、特定のプロフェッショナリズムも子どもたちと共に維持される。

教師の役割・自らの共同責任と知識

子どもが自分の学習に責任を持つためには、学習プロセスを洞察する必要がある。子どもたちが、学習過程において活発でより効果的であるために、子どもたちが抱く疑問や好奇心を示す様子に基づき、学習が有意義で関連性を持たせるようプログラムする。個々の子どもを助け、指導する。

「子ども一人と仕事をする」という意識を持ち、個々の子どもの学習に焦点を当てる。 型にはめる教育から、型にははめない教育へ。子どもたちそれぞれの強いところ弱いとこ ろを理解する。それには学校、親、多種専門家の協力が必要とされ、体制を整えている。

Gentofte 自治体のリソースチーム

人間の多様性を認識する能力を養う。子どもの視点に基づいてサポートする。強い関係を特徴とする学習環境の発展を促進するよう、また人間の多様性を認識する子どもの能力を開発し、子どもが個人的、職業的、社会的に発達するようコミュニティの学習に努めている。

多様性は、多様性が洞察力を生み出すのに役立つ強みであるとの考えを持つ。

個々の子どもの出発点として、そこで子どもたちの心身ともに成長することを満たすため に努力されている。

親は重要な協力者というリソース。子どもを最もよく知っているのは親であり、学校を公開することが理解を生むものとして、緊密な協力のもとに取り組まれている。

自治体の幸福計画の目的として、全ての子どもたちのために幸福を創造する重要な仕事を 明確にすること、全ての子どもたちが見て、聴いて、会って理解し、幸福と学習が両立す るということを実現する。

学校職員は、子どもの福祉と地域戦略の実施において重要な役割を果たしている。

ホームスクール協力

学校と両親の関係性も大事で、協力ができるようにする。

学校と家庭の間の信頼できるコミットメントは、子どもの発達、学習、幸福を支えるものとなっている。できるだけ多くの保護者が計画や活動に携わることが重要で、クラスの社会生活を強化するのに役立つと考えられている。

「幸福と子どもの発達のための親との協力の重要性」をきちんと伝える。

学校教育に関する小冊子を出版しているペアレンタル組織がある。

この地域は、お金持ちの家庭が多く、学力としての希望が高いため、両親の理解を得るの が難しい時もあるとのこと。

ピアツーピアの考え

子どもたちがグループでの会話を通じ、子どもたち自身が経験し、見聞きすることで、自 分の思考や気持ちについて理解を深めることを学び、子どもたちが子どもたちから学ぶ。 生徒同士の学習を通じて社会に出る時のための選択肢の希望と機会が与えられる。

ピアツーピア教育は、異年齢でサポートする。小グループ活動のプレゼンテーションなど 下学年生のプロジェクトを高学年生がサポートする。プレゼンは、子どもも大人も行動す ることの一つとして大事なこととされている。プレゼンサポートをすることは、下学年生 へのアドバイス等だけにとどまらず、高学年生にとっても貴重な学習となり能力をあげる 機会となる。

ピカカフェ - 孤独の予防にも取り組む。

学校図書館

学校図書館は学校の教育活動、そして児童文学と青少年文学とそれらの普及において、図書館の仕事の重要な部分とされている。子どもたちが仕事をしたり、資料を探したり、情報を探したり、指導を受けるためのリソースセンター。

子どもたちが得たい知識があればそのサポートをする。学校の中心部に位置し、学生が独立してプロジェクト達成のために活用できる柔軟な学習環境を提供する。

また、子どもと大人の両方が書籍や電子メディアから知識や情報を検索、処理、伝達できるように設計され、装備され、様々なレベルで読むことができる専門分野の包括的なコレクションがある。

書籍、AV機器、コンピュータなど、学校のユーザーが利用できる様々な種類の教材を提供。 学校で利用できない教材は、通常、外部のコレクションから入手できるようになっている。 メディアワークショップの機能と最先端の IT 機器があり、そこから学校の内部ネットワークとインターネットにアクセスできる。コピー機、スキャナ、デジタルカメラ、デジタルビデオ編集システムを使用するため、装置の使用に関する手引きと技術的支援を提供する。 図書館は 8-15 時(金曜日は 8-14 時)開館する。生徒は休憩中に図書館を利用することができる。

図書館の活動は、メディアチームによって行われている。



図書館







カンファレンスコーナー



キッチン

お弁当持参であるが、日中は、子どもや若者が自分の 食事(フルーツなど)や水にアクセスできる機会が必要と 考えられている。

一緒に何か作ることができるキッチンがある部屋がある。



運動

昼休みは、全ての子どもや若者が新鮮な空気を取り、1日を通して運動することが重要とし、 外遊びを基本としている。

紙飛行機を飛ばしたり、手押し車で競争をしたり、子どもたちはとても楽しそうに元気いっぱい遊んでいた。校長先生を見つけると、直ぐに駆け

寄り、「校長先生何してるの?」と声をかけ、私たちのことを興味津々に聞いていた。 ニルス校長はにこやかに「学校の見学に日本から来られたんだよ!」と説明をされた。





成績について

全ての生徒は、9年生に卒業のための多数のテストと2回の抽出テストを通過しなければならない。さらに、生徒はいくつかの選択科目で試験を受験することもできる。

それまでは、子どもたちのプロジェクトに成績は付けない。成績を良くするより点数で評価するより、何をするのかとその過程が大切。他者とのコミュニケーションをうまく取れるようになること、社会の一員としての関わりを実感する場になることが重視されている。

生徒がつくった作品を校舎の入り口に展示。 写真は、カイト。上手くできたかどうかは、 自分でわかる。もっと上手くしたいと思うと 自分で工夫をする。その力を伸ばすために優 越を付けることはしない。



人としての成長は、卒業の時の成績では見ることはできない。高校と連携して 2~3 年後の 状況を話し合い共有する。コミュニケーション能力が高いことがわかる。 卒業生も、教育に関わる。学習のプログラム等にも関わる。



スタッフルーム



卒業生

- Q. 日本のセパレート教育をどう考えるか?
- A. 異年齢同士のサポートは、他にも数学など様々なことを行い、大きな学びとなっている。 取り入れるのは有効。
- Q. 不登校の子どもはいるのか?
- A. ここではとても珍しいこと。もしあれば、家族や政府に連絡し、何が原因なのか課題を 調べて十分な支援をする。不登校が起これば、政府の責任となる。

所見:「子どもが問題ではなく問題が問題である」ということ。その通りだと思う。

保護者と教育者の専門的な知識と併せ連携して、教育環境を豊かにしている。「子どもは 社会の宝」という文字通り人権が尊重されしっかりと教育が行われている。

教育の豊かさをつくりだし、一人ひとりを大切に育てることが、より良い社会をつくっていくことにつながる。先進的な実践をモデルとして学ぶ必要を強く感じる。

教育現場は、子どもたちの自由な発想や感性を伸ばすところであってほしい。デンマークでは、教育の在り方の開発に、労力や予算を惜しみなく使っている。それは、しっかりとした社会を築き上げることに直結していることがわかる。

日本でも、全ての学校が「幸せな人生を送るために勉強する場所」となることを望む。

11 月 15 日 (水) 14:30~16:00

・高齢者ケアホーム

「Plejecentret Kærbo」(プレジャセントリック ケルボ)







施設の概要:1997年に建てられた、コペンハーゲンの北東部に位置している街中の7階建 て施設。

州政府の負担で管理されている。利用は州をまたいでもいいが、これまでの例はない。

1987年にプライエム (Plejehjem 特別養護老人ホーム) の新規建設を禁止。施設を、社会の流れと共にユニット的な施設で高齢者住宅や介護型住宅へと変えられていった。

「死ぬのをただ待っているような場所」は、高齢者の尊厳を冒すものだとの考えに基づい ている。

政府は、高齢者施設に力を入れている。毎年、コペンハーゲンの全ての老人ホームでユーザー調査が実施されている。

ケルボは、モデル的に運営され、政治家の話も聞き政治と大きく関わり必要なことが制度 に反映されていく。

ケルボの建物自体は一般住宅であり、住宅会社ドメーアが貸し出している。賃貸形態は、ケルボに関連する住宅管理とサービス機能に分けてある。ドメーアは建物自体の賃貸と運営を担当し、ケルボのスタッフはコペンハーゲン自治体の基準に記載されたレベルのサービスを提供することを任されている。

入居状况: 54 部屋 56 人(夫婦二組) 全 58 部屋

全部屋には2室の客室があり、オープンキッチン、ベッドルーム、バスルーム、バルコニー付きのリビングルームで構成されている。

住宅や部屋のレイアウト等は、居住者が快適に感じるための家として、また働くスタッフの仕事環境がきちんとしている安全かつ適切な職場としての両方であることを考慮し、デンマークの労働環境庁が定めるいくつかの要件を満たさなければならない。

介助や車椅子使用のために、ベッドの横や足元、トイレの両側、シンク周り、バスルーム 等々、必要なスペースが示されている。

部屋は、一人ひとりの個性がある。自宅で使っていたものや家族の写真などに囲まれて幸せな空間となっていた。これまでの暮らしの延長がここにある。

バスルームには、リフトが設置され、介助者の負担を軽減する。12Kg 以上抱えてはいけないことが定められている。









リビング

バス・トイレ

ベランダ

郵便ポスト

施設スタッフ:担当リーダー3人、ナース 2人、準ナース 10人ほど、ヘルパー3人、 キッチンスタッフ 4~5人、清掃週 1回

24時間スタッフ体制。夜間の対応には7人のスタッフを配置している。

働くすべての人は健康教育を受けている。プロとして、また人間性の両方の資質に基づいて採用されている。

ケルボは、居住者の家で、スタッフはここで働いているという感覚。

「ケルボはあなたが選ぶ場所、私たちは一緒に立ち、互いに助け合う。それぞれ が責任を負い、間違ってしまう前に一緒に話す。私たちは自分自身を扱うように 他人を扱います。」と謳われている。

説明:センターリーダー ヤニーさん (女性)

ケルボは、高い専門性、そして個人の希望に対して敬意と礼儀をきちんと示す。一人ひと りに必要なケアとサービスが行われる**小規模ケアセンター**。

施設を利用する住民方々に、安心(心の平和)と幸福と自己決定をする日々の生活を保障するために最善を尽くすことに徹されている。その方の意志を尊重し、その方の持つ能力を生かして、その方がその方らしく生きるための施設。何が成功するか、何が難しいかについて常に話し合い、住民自らが積極的に関わりを持つことができるように取り組んでいる。

入居は、70%ほどが認知症など記憶に問題がある方々で、孤独や障害という問題がある方 もいる。元気な方は入居できない。

入居のタイミングは、本人・家族・医師等から政府へ連絡をする。対話によって状態を把握し、施設への入居をコントロールする。4週間以内に、部屋が決まる流れ。 本人が自分で入居するためのサインをすることが必要。

空きができれば州政府へ連絡する。訪問時には18人の待ちがあるとのことだった。

施設の相談役はエキスパート3人。二週に一度政府から来るようになっている。

居住者に合う支援は何か?と常に対話を重ねる。アウトリーチもする。

各居住者には、プライマリケアを担当する担当者が割り当てられ、その方のニーズが確実に満たされるように支援される。すべての居住者に相談できる連絡担当者が割り当てられる。連絡担当者の任務は、居住者自身のリソースに基づいてケアを提供し、新しい居住者が以前に慣れ親しんでいた日常生活や習慣を毎日維持できることを可能な限り確保する。

入居後、不安な気持ちの方はいる。それは養護施設に生活が移ってしまう大きな激動で、 介護者にとっても突然日常生活が変化してしまう。そのことを当然のこととして、スタッ フがゆっくりと気持ちを聴く。4週間くらいでほとんどの方が慣れる。

できるだけ不安なく新しい生活に移行できるようにスタッフは努力している。家族や親戚との対話も大事に進められる。

2 カ月に一度、カウンセリング、家族との面談を行う。本人、家族(ボランティア)3 名、スタッフ3名の7名にて行う。

ケルボは「あなたの家」として、家族や友人知人はいつでも訪問し施設の中で歓迎されている。

「良い人間関係はすべての人生において重要である」と考えられており、養護施設に移ったために、それが変化しないように、家族や親戚との良好な関係を大切にし、その方の幸福感を高めている。

自己決定ができること、周りの環境が大きく影響するため、最良の形を作り出すことが重要な課題と考えられている。ケルボでは、住民、家族、スタッフが協力して、素晴らしい 共生と有意義な活動を作り出している。

住民、親戚、その他のスタッフと協力して、 ケルボで行われる活動を計画し実行する、 アクティビティワーカーが 2 人いる。

訪問した日は、音楽療法士の資格を持つマティアさん(背の高い男性)↑

様々なイベントが行われているが、スタッフの意見や思いだけでなく、居住者の意思を尊重し、共に話し合って決めている。活動プログラムから自由な選択ができ参加する。美術館、チボリ公園、動物園へのツアーなど、家の外での活動もある。外へ出かけることや音楽を楽しむこと、親戚を招待することなど、有意義な時間を過ごす。誰と食事をしたいか、新聞は何を読みたいかなども、一人ひとりの希望に合わせられている。

コミュニティ、結束、幸福を創造するのに役立つため、常に住民に一緒に食べることを奨励している。

ケルボのケアスタッフとアクティビティスタッフによって、メンテナンストレーニングが 行われる。毎日のケアの不可欠な部分として、身体的、精神的、社会的スキルを維持する ために、住民が自らできることを引き出し、前向きに過ごせるよう取り組まれている。

居住者の様子

L さん、一番若い男性 72 歳 (居住して 1 年半) …ダンスパーティがあるのが嬉しい。もっと増えるといい。うた、音楽が好き。

A さん、5 年前脳内出血で車椅子生活。日本には 4 回行ったことがある。日本の建築に 興味がある。ミルクがあれば気分がよくなる。パーティがいい。フュッゲ(北欧デンマ ークで古くから大切にされてきた「心地よさ」を味わうこと。キャンドルを灯してお茶 やお菓子を楽しむ。)はとても重要。

E さんの部屋を見せていただいた。92歳(居住半年)…クリスマスの飾りつけがされていた。施設を感じさせない間取りで、生活感があった。ベットやバスルームを見ると、ヘルパーが安全に介助をできるように、スペースやリフトが設置されていた。終始にこやかに対応してくださっていた。

長い方は14年くらいいらっしゃる。ほとんどの方が90歳代。

最初からここで生活していると思われている方もいる。









この日は、皆さんが楽しみにされていたダンスパーティの日。皆さんの心は20代。

全てのフロアには、リビングルームとダイニングキッチンがあり、自由に変化する形で快適で明るい共通の居場所がある。この共通の部屋は、7人の住民で構成されている。 多くはダイニングキッチンで一緒に食べることを選択し、話しながらおいしい食事の時間を楽しめる。

フロアごとのテーマがあり、居住者の興味に合わせたり季節感を表現したりして飾られている。

7人部屋

クリスマス飾りの部屋一













7人部屋のキッチン







←漁をイメージした部屋廊下のオブジェなどは居住者の好みや季節等でテーマを変える



3 階のテーマは「マカエダ女王」 女王を好きな方がいらっしゃる

1階のリビングルームには毎日アクティビティのスタッフがいる。リビングルームでは活動は計画されてなく、新聞読書、コーヒー、音楽、歌など自由に過ごせる。

2階はスタッフルーム

グラウンドフロアには美しい中庭があり、お天気がよければ、バーベキューディナー、映画、クイズ、体操、音楽イベント、カフェなどをして、特に日差しと新鮮な空気を感じるために使用されている。

中庭や窓からの眺め



3 階にはジムがあり、無料で利用でき理学療法士や作業療法士が住民とともに使用する。 ケルボにはリハビリテーションを担当する理学療法士と作業療法士が配置されている。 例えば、一時的な障害のために、住民はリハビリを受けることがあり、怪我や病気の後、 目標を絞った訓練が必要。リハビリテーションは、介護スタッフと協力して、理学療法士 および作業療法士によって行われる。

ケルボの一般開業医は決まっている。入院時にケルボの医師に変更するように提案されるが、あまり遠くない場合は、自分の医師の診察を受けることもできる。近くの新しい医師を選択することもできる。

デンタルケア (国として重要視されている)

身体的または心理的な理由により、一般歯科医院に行けない場合は、ケアを使用することができる。歯は定期的に検査され、必要に応じて治療される。

医師の役割は大きい。痛みのコントロールや死への恐怖との向かい方などのケア、パニックに対応することも重要とされている。

終末ケア

政府は孤独死ゼロを目標としている。終末ケアは、専門のナースが担当する。看取りを家族も一緒に考え過ごせる。家族が来れない方は、ボランティアを申し込むことができる。

スタンプカード

コペンハーゲンの市町村のすべての居住者は、スタンプカードのシステムで1週間に30分の追加サポートを受けることができるようになっている。

コペンハーゲン自治体のケアセンターの居住者のための個人的な取り決めで、自分だけの 自由な時間として使用する。

毎週のスタンプカードは、6週間ごとに最大3時間まで保存することができる。 毎週30分、1週間に1時間、4週間に2時間と、利用目的に合わせて時間を決め、貯められる。

例えば、美容院に行く、または友人を訪問するための助けを得ることができる。また、食事、読書、ウォーキング、自転車ライド、または写真アルバムでのソートに時間を使うこともできる。博物館やチボリへの入場、カフェなどへの交通費にも使え、本人が望み、必要なものを決めるのは居住者本人。

地域コミュニティ

ケルボに関心を持つ団体等と関り、居住者にとって、音楽やムーブメント、文学、マニキュア、ジャズクラブなどの様々な分野に興味関心を持てるように協力して活動している。 近隣の小中一貫学校から、週1~2回の訪問があり交流している。







子どもたちの訪問の様子はビデオで紹介 居住者の心の底から湧き上がる笑顔が印象的

所見:住んでいる「人」が中心で、ケアの場ではなく「家」。誰一人孤独にさせないことを大事に考えられている。会いたい人と会い、食べたい人と食事をする。入居者みんなで話し合って決め、プログラムから自分の好きなものを選び参加する。

日本では、まだまだ"してあげる介護"で、ケアや医療行為を提供することによって、その方の持つ力を奪っている場合もあり、機能低下を進めてしまうケアもある。それは、運営側の視点(都合)に立った「リスク回避」や「効率化」であり、運営主体になっているからではないか。人の尊厳という根本的なところでの違いが現れていた。特に、考えさせられた点は、施設にいても"社会的スキルを維持する"ということ。これは、日本において早急にすべきこと。とても重要な意識改革だと思った。

どこへ行っても安心できる環境は、国の政策と現場の意識でつくられている。

社会的背景や文化的背景に違いはあっても、誰のための施設なのか、何のための施設なのかを問い直し、ケアの在り方などは直ぐにでも変えていけるところはあると考える。幸福度の高いデンマークに学ぶ点は非常に多い。

11月15日 (水) 19:00~21:00

・Berit 家訪問 (ベリットさん)







玄関

玄関へのアプローチ階段

家庭訪問

今回のツアーが、20 人ほどの大所帯となったため、大勢が訪問できるご家庭を選ばれてい た。(この日の朝に視察した、特別高校「Gentofte Studenterkursus」のレッケライケ副校 長の友人宅。)

コペンハーゲンから電車で25分ほどの郊外に建つ一軒家。

ご夫妻は、銀行マン(夫)と教師(妻)として共働きをされている。4人のお子さんがい るが、長女が成人されていて、現在は長男、次女、次男の5人で暮らされている。 この日は、ご夫妻と次女、次男、レッケライケ副校長の5人でもてなしてくださった。

デンマークでは、子どもは18歳で独立し、大学・社会いずれかで自立生活を始める。 次男さんは、発達障害があることをお話しいただいた。本人からも、学校のことや興味あ ること、習い事の話をしてくれた。長男さんと一緒に空手を習っているとのこと。日本に はとても興味があると、目を輝かせて話してくれた。

クリスマスに食べるお菓子とホットワインを用意してくださっていて、デンマークと日本 の文化を話しながらデンマークの「ヒュッゲ」を体験させていただいた。







照明や家具、インテリアなどに配慮がなされ、居心地の良さを感じた。日照時間が短いことや、外での食事は高くなることもあり、日頃は家庭で過ごす。くつろげるスペースをそこそこに準備し、家族とゆっくりと過ごす時間を大切にされている。





















←次男さんの部屋

所見:家族と共に小さなころから洗練された空間と社会性のなかで過ごすことで、その感覚が継承されていることを感じる。デンマークの人々の人権意識の高さは、社会の基本となる家族関係からも育てられている。デンマークは、働き方も人権が守られている。報酬は自立ができるように設計され、生産性や合理性が高く、そして社会性が豊かな状況。小さなころから人が優しい、社会が優しい、その環境によって、また次の世代が健全に育まれていると感じた。日本の社会は、生活のために共働きが増えている。家族や子どもと、ゆったりとした気分で過ごす時間が極僅かしかない家庭も増えている状況だろう。人口減少が進む日本で、持続可能な社会にするために、真に人を大事にした働き方の改革が必要。人々の人権意識向上や地方自治体独自でできることを提案していきたい。

11月16日(木)9:00~11:30

・保育ママセンター「Dagple je」 (ダイプライ)

市役所から北へ約1Kmのところに位置する。「子育て支援センター」に保育機能が付与された施設。





説明:リーダー イエッテさん他

ゲストハウス (一時預かり施設) の保育室で、お茶とお菓子をおもてなししてくださり、 取り組みの紹介等をしていただいた。









デンマークでは、公立保育所と私立保育所の両方があり、家庭で保育する保育ママ制度もある。

保育所等の運営費は全て政府が決め、親負担額等を各州が議会で審議し決める。

年に8回(大きいところは10回)施設や自宅に安全チェックのため監査が入ることになっている。

入所については、政府が調整対応する。インターネットでの登録制で、子どもは4週間で 入れる状況。

出産に際して 26 週休める (父は 14 週) その後 1 年間産休が取れる。産休の時期も選べる。 1 30 分/日)で、半日休 みを取ることができ、それを溜めることもできる。年間にすると1 46 日。

デンマークでは、年に6週間は休みを取る必要があるとしている。58歳以上は+5日で、81歳の保育士もいる。

保育ママセンターでの保育

仕事をしている親が預ける保育所、幼稚園の様なところ。ここは親負担3500kr。

病気援助や所得に応じた援助、その他の助成金等の制度がある。

スタッフ3人で8人の子どもの保育をする。センター内保育所には、いつも同じ子ども達が来る。

毎朝7時に、その日の情報が連絡される。

毎週木曜日に計画を立てる(政府から調整された情報が連絡される)

月~木曜 8~16 時半 金曜 8~16 時

9-10:30 おやつ 10:45-12:00 お昼 12-14 お昼寝タイム 14-14:30 おやつ 食事は4回。子どもに健康で多様な食事を与えなければならないとし、オーガニックのもの90% (規定化されている) を使用して糖分を減らした食事 (ダイエットポリシーがある) にしている。

毎朝パンを焼き、早い時間(8:00)に来る朝食を食べていない子どものために、朝食を準備する。

子どもと一緒に楽しい時間を過ごすのは、保育所の最も重要な仕事。

子どもの発達は、話す、歌う、遊ぶ、季節感を味わうなど、毎日の活動の経験を通して刺激されなければならない。

遠足や外遊びもする。年長さんは、年に一度ファーム体験等バス遠足がある。

手先を使う遊びをするためやごっこ遊びのためのおもちゃ、他にハイチェアー、ベビーカー (ツインも)、ハーネス、子ども用家具、お昼寝用寝具等々が十分に揃っている。

子どもたちが自分でクリエイトできるようになるため、壁の環境等子どもと一緒に作る。

写真を飾る、音楽家を呼ぶ(8回/年計画)など、芸術的な面の豊かな成長を促す。

親と子どものことをしっかり話す。

10人を預かるセンターもあり、このような「保育ママセンター」は、コペンハーゲンに大きいところで 2 ヵ所、常に 4 人しか預からないところや病気の子は預からないところなどサイズは様々で全部で 21 ヵ所ある。

コペンハーゲンの子どもの数は772人、スタッフ75人。

親と協力して個々の子どもの状況にあった保育を行う。

衣服、着替え服、おむつ、季節や天候によって水着、レインウェア、履物等を親は持参する。

ゲストハウスの役割

病気の子どもを預かるところで、スタッフは、この日は2人 いつもは3人。









おもちゃ類





子どもサイズの家具





お昼寝グッズ



ベビーバス→









スタッフルーム



子どもたちと一緒に飾られた外階段の装飾



デイケアセンター

託児サービスを行うセンター。

各地区には、デイケアグループがあり、週に1日か2日など個人によって曜日等取り決め、 親のレスパイトのための子どもを預かる施設がある。遊びや育児についての相談や学びの 場ともなる育児会が開催される。

デイケアサービス提供者は、子どもに愛情のある日常生活を親子ともども送れるようにするため、親への良いアドバイス等を行う。例えば、親として子どもの言語をサポートする 方法についてなど。

保育の技術によって、子どもの言語や運動および社会性の発達などを促し、強化すること によって、個人の自尊心を促進することに重点を置いている。

保育スタッフは、ウェルビーイング(個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、 社会的に良好な状態にあること)を研究し、子どもたちのための最良の生きる日を作り出 すために、親と同じ立場として保育にあたる。子どもに屈辱を与えたり、傷つけたりする 行為は決して行われてはいけない。ガイドラインに違反すると、デイケア提供者は運営資 格を失う。

特別ニーズのある子どもも預かる。登録の子どもは9人で子ども1人に1人のスタッフが 保育をする。

個々のデイケアグループでは、働くスタッフの休暇を計画する。スタッフの子どもはゲストケアに来ることができる。

子どもたちが喜びそうな玄関マット→

デイケア内部は子どもたちがいる ので、写真が撮れなかった。 入口のボードに日本語を書いて 歓迎してくれた。





保育ママ制度(男性も保育ママになれる)登録者162人

センターのサテライトとして、自宅で子どもをあずかる保育ママ制度によって、デンマークは待機児童のいない仕組みになっている。

資格や施設の基準はあるが日本の保育士のように国家資は必要としていない。子育ての経験が必要。

自宅の損耗(子どもによる汚損・破損)修理は、預かるリスクとされ54%税控除される。

保育ママセンターでは、保育に関すること、また保育ママ達が孤立しないようしっかりとフォローする。例えば自分が病気した時や、旅行に行く時は、保育ママセンターが預かる。 週に何回か他の保育ママと交流や相談をする機会がある。

保育ママは、資格は必要とせず、子育ての経験があることが条件。

保育スタッフになるには

保育できる人や働ける人を増やすために州政府が認定する。

前科がないことが条件の一つでもある。警察から情報提供があり、子どもに関すること麻薬・銃等々犯罪歴を調べる。家族も調べる。

働き方によって、子育て経験があるか、保育園等での保育業務についたことがあることな ど条件が様々である。

ペタゴー (ペタゴック) の考え

全員が特別支援教育・保育に関する講習を受けている。特に障害児保育や・教育に特化した経歴や履歴のあるペタゴーを採用しているわけではないが、経歴などを採用の際の参考にするとのこと。しかし、デンマークでは子どもによって異なる資格を持った専門家が保育や教育を行うことに対して、そのことが子どもを区別していることになり、平等ではないと一般的に考えられており、障害児幼稚園であっても、通常の保育所・幼稚園であっても同じ養成教育を受けてきたペタゴーがその保育を担当し、後は必要に応じて研修コースなどによって、個々のペタゴーがその専門性を高めていくことで、保育の質の向上に努めている。

歷史

デイケアは 1954 年に始まった。当時の長時間労働の母親の助けとして始まる。

1964年には保育所は不足していた。

より多くの女性が保育施設を必要とし、それぞれの市町村で、働き方に合わせた緊急解決策として、デイケアはすべての両親の必要に応じるとして法律で採択された。

1966年には、オーフス (8月1日、26人の子どもを18カ所のケアホームに分けてデイケアを開始し、一年後には171人に上った)、コペンハーゲン、オーデンセでスタート。国レベルでは、1日のケアには150人の0~12歳の子どもがいた。授乳中の母親に負担をかけることをしないとの考えが基礎にあった。

1967年、0-3歳の子どもたちに必要な保育が確立されていく。

1968年には、全国約4,000人の子どもが地方自治体の保育に登録された。

各自治体の待機児童(オーフス市で131人)が増える。保育士の勤務時間は約45時間/週。 子どもを預かる必要性が増えた結果デイケアが増加。

1969 年には、デイケアのアシスタントまたはリーダーが、家庭にいる子どもたちに保育が行き届いているか、月に1度授乳中の母親を訪問するようになった。

1970年代 デイケアの子どもの数は 6,000以上に上り、更に促進され 9,000人以上となっていった。保育園で働く人々の労働組合組織が確立していった。

1972年、デイケアグループと呼ばれる小規模なグループで会議を開始。

デイケアの保育の充実から、家庭での日頃のケアも始まり、当時は子ども 7 人まで保育する自治体があった。いわゆる保育ママの始まりで、子どもたちは他の子どもや母親と遊ぶ良い機会となり、小さな集団の中でお互いを助け合うことや友好関係を築いていく経験の場が広がっていった。

1973年 デイケアは、緊急対策としてではなく保育所として位置づけされた。

1975年 保育ママの需要と供給も増えていった。

1976年 デイケアの運営は、自治体から助成されるようになる。

1979 年 家庭でのケアは、子ども 7 人から 5 人までの保育になっていく。デイケアの待機児童は増えていく。

1980年 この 10 数年でデイケアの充実と共に、女性の働き方が変わり、ジェンダー平等法の規定に従って改正され、家庭でのケアにママだけではなくパパも携われるようになった。 (オーフス市議会は、地方自治体の託児所が市町村の責任であると判断した。)

1981年 親の関わりが重要とされ、年に2回ほどの育児会等が開催されるようになる。

全国 275 自治体が保育を担う。全国では子ども約 64,000 人と保育者約 17,000 人。

1984年秋、保育に携わる人材のプロフェッショナルコース創設。

働き手のためでもあり、保育の質の向上のためでもあり、ニーズが高まる。

1985 年 デイケアのリーダーとアシスタントは、デイケアの教育者として地位が高められた。 1988 年には、保育士教育に 11 種類の専門コースが提供された。高校等でも社会教育保育教 師のための 6 週間の訓練コースなど創設されていった。

1991年 地方自治体のデイケアは 25 周年を迎え、保育所の需要は減少していった。

養護老人ホームでの保育(3~5 歳を対象として)を設けることが提案され、1994 年に設立された。

1992 年 スローガンは "子どものための保育"。保育日は保育に重点を置き、子どもと大人がお互いに楽しむ場所となっていく。

1993年の春、介護施設で保育士が援助をするスキームが開始される。

1994 年十代の若者が母親になるケースが増え、保育士は若い妊婦を支援するようになる。

1995年 介護施設内で喫煙することは禁じられるようになる。保育所では早くから禁煙。

1996年 初等教育プログラムで男性の保育士教育が始まった。

所見:日本での保育士・保育所不足、働き方改革に大きな効果をもたらしそうな政策だと 思える。自分の子育でで家庭に入っている潜在保育士の活用や収入の確保といった点でも 非常に有効な政策。

デンマークでは「記録」について、そんなに求められず、保育ママや家族との連絡等が密接に行われ安全性や質の確保をしている。日本では、保育現場における「記録」の重要性

が高い。様々な形態の保育の在り方も増えては来ているが、安全性を高めるためにどう取り組むかなどが、まだまだ壁である。

保育ママの取り組みは、孤立することが保育に与える悪影響が社会への損失ということを理解し、子どもを育てる大変さと尊さがきちんと働き方に反映されており、子育て人育ての支援体制が構築されている。不安なく気兼ねなく暮らせる仕組みが、社会の現状に合わせてつくりあげられている。これが、持続可能な社会をつくっていると考える。

子どもは親の所有物ではなく人を育てるという考えの背景があり、子どもを一人の人間として認め、自由はあるけれど責任が伴うということを教える。支援の在り方の違いにも専門性を高める努力がされ、手厚い教育システムが構築されていった。国民が不安なく過ごせる支援をしっかり行えるように体制を整え、人々は選択し利用できる。このように自立を促し、人格形成づくりに国として力を入れている。

このことは、国民一人ひとりに寄り添う国の有りようにより、一人ひとりの考える力を育む教育が暮らしの中で行われ、民主主義のあり方や合意形成の仕方を学び、更に具現化できていく。デンマークの国民主権が根付く結果となる素晴らしい循環である。将来を担う子どもたちの幸福と発展のために、国民の総力が発揮されている。

国連による「幸福度調査」の国別ランキングで、2016年に1位、2017年は2位を獲得している「幸せな国」である所以で、一人ひとりの幸福感と発展が、持続可能な国をつくっていると考える。

11月16日(木)15:00~16:30

・世界一バリアフリー障害者施設「Handicaporganisationernes Hus」

(ハンディキャップオーガニゼーショナーズ ハウス)

「世界で最も利用可能な最先端のオフィスビル」or「世界で最もアクセス可能なオフィスビ

ル」と呼ばれている。



首都コペンハーゲン郊外に位置する

2012年に、デンマークのハンデキャップ組織団体 (DH) が、HøjeTaastrup (ホジェ・タストラップ) にオープンした。

デンマークの60万人近くの障害者に、他の市民と平等により良い機会を提供するため、障害者の各組織と全体的な協力関係を強化する**歴史的な決定**だった。

DHは、新たなプロジェクトを通じ、将来の障害法とユニバーサルデザインのダイナモ(デモンストレーションハウス)として機能し、**将来の建物のモデル**とされている。

障害のある人々が地域社会の活動に参加する場合、周辺環境が多様なニーズに応えるように 設計されていることが基本条件。**環境によって障害を受けることが無い**ようにすることが必 要とされているため、すべての障害者の特別なアクセシビリティのニーズを満たすように設 計されていることが不可欠とされている。

この"ユニバーサルデザイン"の原則に従って建てられ、国内外で障害に関係なくすべての人に 100%のアクセシビリティを提供しようと努力している最初のオフィスビル。

DHのプロジェクトは、障害者にとって、アクセシビリティとユニバーサルデザインのための 国際的なパイオニア建築物でなければならないという目標を、最初から持っていた。 その背景にある**ビジョンは**、

障害の有無にも障害が何であるかにかかわらず、すべての従業員がオフィスビル内で平等に機能し、希望を妨げられないように、誰にとっても最適な機会を確保し、仕事や地域社会の生活に積極的に参加できるようにということ。

プロジェクトのスタートは、様々な組織の代表者がプロセスに参加し、ユーザーとプロジェクトスタッフとのミーティングとワークショップが開催された。

利用する側の対話が最前線にあり、障害を持つ人々の声が生かされ、すべての人がアクセスできるようにする重要なモデルになっている。

障害組織が1つのオフィスビルに集約され、組織間の共同プロジェクトのためのスペースが 準備されている。組織や企業間の結束と知識の共有を高め、コミュニティを強化し、ユーザ ーにとって、日常生活の中でより多くの元気や喜びを与えることに繋がっていて、ここを利 用する人々は、**仕事をする喜び、生きがいを感じられる**。

多くの様々な障害を持つ人々を仕事や社会に新たに巻き込む仕組みができている。 魅力的で現代的な職場となっている。

建設コストをかけずに、多くの機能を持つ最先端のオフィスビルの構築を実現している。 持続可能な建物を望み、エネルギー消費の最適化(低エネルギー)に加え、柔軟性、耐久性、 清潔性を重視された。健康的な室内環境と低 CO2負荷のために材料が選ばれている。

開業3年後、建物の建設プロセス、ユーザーの住居経験を、デンマーク建築研究所は、会社間の結束を高めていると評価し、非常にアクセス可能な(利用しやすい)施設の重要かつ素敵なモデルと結論づけている。

このようにハード面では、スタイリッシュで機能的なデザインのデンマークの伝統に妥協することなく、近代的なオフィスビルのアクセシビリティに全面的に焦点を当てた建物。

開放性、良好な音響、重要な色と明るいデザインは、ユーザーが働く経験を増やすことと仕 事事態の満足度を高める上で重要な要素であると考えられている。特に、建物の中心の**アト リウムの作り**は、吹き抜けにされていて**気分とアイデンティティを大事にする空間**として重 視されている。

全体は、アトリウムを中心に四方向に伸びている(ヒトデ型)。

グラウンドフロアには、カフェテリア、レセプションデスク、ミーティングセンターなどの 一般的な機能がすべて備わり、四方に伸びたスペースには、オフィスなどがあり、高い**光透 過率を持つ大型の高倍率ガラスが使用**され、自然の光を最大に取り入れることができ、省エ ネを実現している。









エレベーターと階段があり、すべてのフロアーがフラットで車椅子の移動ができる。 フロントデスクは、2つの高さに建てられているので、車椅子利用者も利用しやすい。 ヒトデ型の特殊な形状は、建物の真ん中に立つと、全体的な配置がわかり易いように設計されて、各フロアーは**色でゾーン分け**がしてあり、自分がどこにいるか、どこへ向かえば良いのかの判断に役立っている。中心からのスタートは、すべての場所へ行くために短い距離にしてある。

例えば、認知障害のある人は、ほんの少しの指示で自分自身を方向付けることができる。







エレベーター

「ドライブスルー」式(通り抜け)で、両側に扉があり、旋回する必要がない。足元にもスイッチがある。緊急時にも作動することを確実にするための特殊な消防システムと避難計画がある。



すべての手すりに点字が装備されている。

階段の手すり…一階には1つ、二階には2つというように、自分がどの階にいるのかを確認できる。

床点字表示…すべてのフロアにガイドラインがある。

アトリウムは、円形ではなく5角であるため、目の不自由な方も移動しやすい。

「ガイド」 壁面のガイドには、音声でのナビゲーションがある。













明るいインテリア

光に優しい素材があり、あたっても 危なくないように角を少なくしている。





椅子

じっとしていることが苦手な方のために、 揺れる椅子が用意されている。





トイレ

スペースを取ることに重点を置いていて、車椅子の方だけのためではなくヘルパーのためで もある。ドアを開けずにレイアウトがわかるように表示されている。









食堂

人が近づくと自動で扉が開閉する。 廊下のドリンクサーバー 自由に利用できる。





会議室等

会議のために部屋を予約することができる。2~100人利用可能な部屋がある。









トレーニング室

機能回復やリハビリなどができる。





デンマークの福祉に対する所見

デンマークの福祉の取り組みは、国全体が高い意識で行っている。納める税金は高くても、 いわゆる"ゆりかごから墓場まで"手厚く一人ひとりが大切にされている。

制度に人を合わせるのではなく、人に制度を合わせる。

そのためには、経費が必要であるが、持続可能な社会にするために、経費をかけるべきところにかけている。税の70%が福祉のためにあてられている。

年金からの天引きはなく、自分で納める。高い税金を取られているという意識はほとんどなく、未来への投資。仕事をしている時と同じで、社会のお世話になっているのではなく、社会の一員として支え合っている感覚ではないかと感じた。

デンマークの人々は、"家"へのこだわりが強くはない。家族を大事にしないということではなく、日本のように生まれ育った家で最期を迎えたいという意識が低い。

なぜなら、年代を問わず、障害の有無にかかわらず、どこに行っても質の高いサービスが提供されるという安心感があるからではないかと感じた。今回の視察で、実際に施設を利用する人々と接して、肌身で感じた。

ダンスパーティの時の、生き生きとした笑顔から、心から楽しまれていることが伝わってきた。日本でいう"施設"にいるような感覚はまるでない。

人権意識が高い。仕事へのプロ意識が高い。

政治と国民の生活が密接につながっていることが、日常から実感できる社会になっている。 働き方、支援の在り方、人々の暮らし事態が、正に民主主義を具現化していると思った。 このような社会が実現しているので、人々は「政治を信頼している」と、日本人の私は思っ てしまうが、おそらくデンマークの人々は、「当たり前のこと」と思っているのではないか と想像する。

超高齢社会と人口減少に向かい、障害者の割合が増加していく日本の福祉の在り方も、変わらなければ破綻をしてしまう。

一人ひとりの能力を発揮できる社会を、国として進めていかなければならない。 まずは、自分の身の回りから、小さなところからの意識改革をしていきたい。 できることから実行していきたいと思う。

デンマークという素晴らしいモデルがあるのだから、日本でも、また地域社会においても実現できると信じて、議会を通じた発信や多くの人に伝え、福祉国家の実現につなげていきたい。

11月16日(木)16:30~17:30

・デンマークと日本との違いについて

講師:クロマン・ソーレンさん

プロフィール

- ・2004年からコペンハーゲン大学で一年間英語
- ・2005年からコペンハーゲン大学で3年間日本語
- ・2006年の夏、早稲田大学短期コース
- ・2008年からワーキングホリデー(英会話など)
- ・2009年から国費留学生として大分大学経済学部(開発経済)
- ・2011年に東南アジアバックパッカー
- ・2012年からスリランカの州政府のプロジェクトに関わる
- ・2013年から一年スリランカ在住(障害者関係など)
- ・2014年からタイ北部ストリートチルドレンの組織と関わる
- ・2015年からインドの最下層の子どもたちの学校と関わる

様々な経験をお持ちのソーレンさんから「デンマークと日本の違いについて」ご講義いた だいた。

福祉国家

デンマークでは日本とは社会的な仕組みが大きく異なる。デンマークを含めた北欧諸国は 社会民主主義型の福祉国家と言われ、国および地方政府が社会保障等政策を主導し、手厚 い公的サービスが供給される。国民は高い税を支払う義務を負っているが、税金を取られ ているという感覚はなく、未来への投資という感覚である。さらに「男女平等」が高度に 達成されている社会でもある。一方日本は、国や地方公共団体が一定の役割を果たすもの の、企業(労働市場)や家族の担う役割が大きな意味を持つ社会であると言える。時代は 移り変わり、この福祉国家デンマークでも様々な議論はあり、まだまだ足りていないこと など無くはない。しかし、日本社会の現状と比べれば、社会的格差を生み出さない、また 性別によらない、個人の尊重を重視した平等が実現されていると言える。

男女平等

デンマーク国内の研究者の間では、「ボトムアップ」型と評されている。デンマークにおける女性の社会進出は、女性の権利が政府によって認識されていたわけではなく、戦後の経済発展の中で労働力不足が深刻化したことから、ほぼ必然的に起こった現象であると言われている。「男女平等」に対してデンマーク政府事態は、他の北欧諸国に比べると優先



すべき課題とは捉えてはなく、比較的消極的な態度を示してきたという。国民の暮らしの 中での必要なことが、必要な形としてつくりあげられてきた結果であると言われる。

デンマーク女性の労働力率の高さは、2014年には 0ECD 諸国の中で第 4 位(2015 の世界経済フォーラムで、労働力率は男性 81%、女性 76%)。母親と子どもの福祉に関する調査においても国際 NGO「セーブ・ザ・チルドレン」が 2015年に発表した Mother's index によれば、デンマークは 179 カ国中第 4 位。女性の就業率が増加したのは 1960年代から 80年代で、福祉制度の様々な制度が発展していった時期でもあった。

子育て支援制度

子育て支援制度の拡充は、女性の社会進出が大きく影響している。1960年に43.5%だった女性(15歳~64歳)の就業率は1975年に63.5%まで上昇し、1980年には71.4%に達している。主に女性が担ってきた子育ての役割を補完するために公的な制度が充実し、制度が整うことで就労が促進する。このように女性の労働力率の高まりと保育・育児支援制度の整備は一体となっている。

母親だけでなく、父親の保育・育児参加に関する制度も整備されていった。社会状況の変化に伴い様々な制度環境の変化が起こり、デンマーク社会における保育・育児のあり方や人々の価値観が次第に変わっている。

日本においては、イクメンという言葉が出てきたように、育児に関わる父親は確かに増えてはきたが、産休・育休の取得は実際厳しい。特に、育休取得率は女性8割台で男性3.16%(平成28年度雇用均等基本調査より)。育児休暇制度としては、大企業ではある程度浸透してきているといえるが、阻害要因としては、「育児休業を取得しづらい職場の雰囲気」が第一に大きくあり、男女の育児休業の取得率の差は25倍以上という大きな違いに現れている。

そもそも仕事が忙しすぎて有給休暇すらとれないという男性も少なくない状況。 育児休暇 をとりやすい環境づくりはまだまだ二の次となっている。

日本は、育休先進国を手本に制度改革を進めていくことが重要。

就業

性別によらず仕事を持つことが当たり前とされているが、男女間にその差は存在し、産業別に就業者の割合では、女性は「公務・教育・医療」での勤務がほぼ半数を占め、男性の就業は「貿易業・運輸・交通など」、「公務・教育・医療」および「製造業、鉱業、採石業、電気・ガス・熱供給・水道業」といった産業が上位。

デンマークでは、「公務・教育・医療」とは主には公務員(教育や医療分野において民間の参入が非常に限られている)。手厚い公的サービスの供給には女性公務員が重要な役割を果たしていると言える。

就業率の高さに加え、女性もフルタイムもしくはそれに近い就業時間で働く場合が多い点もデンマークの特徴とされ、2014年には、就労している女性の、35.8%がパートタイムであった。

また、男女間の賃金格差も 14.9%の差があることが示されているが、EU 諸国の平均は 16.4% であり、それよりは低い数値である。 (2015 年発行の EU による報告)

日本においては、厚生労働省が 2017 年 2 月 22 日発表した 2016 年の調査によると、フルタイムで働く女性の平均賃金は月額 24 万 4600 円と 3 年連続で最高となっており、女性の賃金が増加を続けている現状はある。しかし、男性との格差が過去最小を更新したとされるものの、男性の賃金の 73%である。男女格差はここ 20 年で 10 ポイントは縮まっているが、欧州各国などと比べると格差はまだ大きい。

1960年代以降、女性の労働力が重要な位置を占めるようになるのと並行して子育て支援政策は展開されてきた。日本において、女性の社会進出にはまだ壁がある。

尊重・敬意

どんな相手であってもその意見を尊重する。互いを神から与えられた存在として大切に遇 する。違いを認め合う。

具体的なことは、教育の場面に多くみられる。学校運営に生徒が関わる仕組み。義務教育であっても入学や卒業は本人や家族の意志が尊重されている。障害があっても教育の保障がある。相互に支え合う社会をつくり、社会が保証する(高福祉高負担)ことを実践している。

ノーマライゼーションの生まれた国である。

平等・公平

平等は、全てが等しく同じ権利を有する。公平は、必要としている人に必要なものが必要な質と量とが提供される。

その具体化は、国民全員に家庭医がつく医療システムにより、国民の医療費負担はないものの、医療費・薬剤費の削減が実現している。医療システムにおいても先進国である。

また、国民全員にケースワーカー(相談員)がいて、生活全般にわたる全ての問題の相談 窓口となっている。問題が深刻化する前に社会的支援が受けられる。

高齢者年金・早期年金(障害者年金)は、毎月約25万円程度支給される。高齢者全てに65㎡以上の住宅保証がある。

教育費においては、GDP 対比の公的負担は世界一の予算である。大学院まで無料。

民主主義

全ての人が対等に参加し、意見交換しながら話し合いによって決める仕組み。全ての人が

満足できるということをめざすのではなく、納得のできる線を見出すように進める。 その具体化は、政府による介入を厳しく制限し、自治体や学校の自治の確立を図っている。 選挙権・被選挙権が 18 歳からで、高校生の市議会議員が活躍できる。市議会議員の報酬は 時間給となっている。

また、比例代表制で死に票が生じない選挙制度である。投票率も 75%を下回ったことがない。

日本においては、得票率からみる議席数と実際の議席獲得数にかなりの差が生じ、民意は 反映されていない。その投票率は50%程度。

エネルギー施策

自然エネルギーなど再生可能エネルギーを追求しながら、エネルギー消費量そのものを削減し、かつ快適な人々の暮らしを向上させる取り組みに力を入れ、持続可能な社会をつくり出している。

低エネルギー社会への取り組みとして、大きなことは原発ゼロ宣言(1985年に国会決議)を行った。これは、チェルノブイリ原発事故の一年前のことである。 2025年までに、風力発電比率を50%へすることを目標としている。

戦争の歴史

第一次世界大戦では中立を維持したが、第二次世界大戦では1940年にナチス・ドイツによって突然宣戦された。国王クリスチャン10世は亡命せずに一日で降伏を選び、デンマークはドイツの占領下に置かれることになった。初期はモデル被占領国と呼ばれたが、国内では自治を許され、反ナチ運動家を保護したりした。その後、ドイツ軍への抵抗運動なども起こった。一方で駐米大使ヘンリク・カウフマン(英語版)は連合国に接近し、グリーンランドを連合軍の便宜に任せた。またフェロー諸島とアイスランドも連合国によって占領され、うちアイスランドは1944年に独立している。カウフマンの活動もあって、デンマークは本国政府の活動にも関わらず連合国として扱われることになった。5月には駐デンマークのドイツ軍が降伏し、デンマークは解放された。

所見:「保育園落ちた」という叫びが大きな反響を呼んだ日本。「女性の活躍」や「子育て支援」のあり方に対する関心は今まで以上に高まっている。

デンマークにおける子育て支援政策が歩んだ経緯から、親と子、それぞれの権利に基づき、個人にとってどのような選択ができることが望ましいのかを模索し、形作られてきた。「男女平等」に関しては積極的でなかった政府の下に展開してきた子育て政策だったことが見えたが、個人の権利を重視し、人への敬意によって福祉の供給を重視する社会の枠組みが確立し、共稼ぎ家族の子育てをサポートするという現実的な目的のために、市民も声を上げながら現在の制度が整えられてきたと考える。このようなデンマークの事例は、日本の

政策や制度を批判したり、逆にあきらめたりするのではなく、私たち一人ひとりが誠実に 考え、どのような社会をめざすのかを明確にすることが非常に重要であるということを見 せてもらえていると考える。

保育の場面では、保育士資格を有する人材をうまく活用できていない現状があり、働き方の問題は大きい。

また、日本における子育で支援のあり方を考える上でも重要な要素は、子を産み育てる選択をした個人の収入面に不安が出ないよう、高い割合の所得保障が用意されている点もある。さらに、子どもへの手当はある一定の額を基本とし、家庭の収入で区別するのではなく家庭の事情を考慮した多様な補助を用意し、子どもが成人するまで支給していることも現実社会の子育で事情を支えるものとなっていると考える。

そして、保育サービスの利用申請時に親の勤労状態や求職活動は問題とされず、親の状況によって子どもがサービスの機会を与えられないという事態に陥らないように制度があり、父親の育児参加に関する制度の導入事例等は、母親と父親の子育てへの関わり方という意味においても、働き方においても、「平等」や「参画」することがどういうものなのか、その結果として生まれた社会が具現化していると感じた。

社会の仕組みや社会経済状況の異なるデンマークであるが、個人の選択を最大限に尊重する仕組みを模索し、できる限り実現させてきた経緯は、子育て支援政策の充実を図る上での日本社会にとって大いに参考にすべきものと言える。

日本では長時間労働をいかになくすかが働き方改革の一大テーマだが、デンマークでは残業がほとんどない。そもそも、フルタイムの労働時間が週37時間ほどと日本より3時間も短く、月~木曜日は8~16時の8時間勤務、金曜日は8~13時の5時間勤務というように、金曜日は早めに帰るのが一般的。その上、有給休暇は年に5~6週間付与され、ほぼ100%消化するとのこと。圧倒的に仕事の時間が短いデンマーク。しかし、決して仕事が嫌いなわけではない。朝7時、まだ暗いうちから街は動き出していた。

また、同一労働同一賃金が徹底しており、年金や失業保険などの社会保障や職場環境も含め、パートタイムでもフルタイムと変わらない条件で働けるため、ライフスタイルにあった働き方が選択しやすい仕組みがある。

デンマーク人が大切にしている価値観を表す "Arbejdsglæde (仕事への喜び)" という言葉があり、これは「自分の仕事の意味を感じられると、喜びも増す。仕事への喜びを感じている人が増えれば職場の環境もよくなる」という考え方なのだそうだ。

家族との時間はもちろん、ボランティアや地域社会のための活動、PTA活動などに時間を費やす人も多く、人生を充実させるために、仕事とプライベートの時間配分をうまく調整しようとしている人が多い。女性の社会進出が進んだことによって「子育てしながら働く」が当たり前の世の中を実現し、人々が子どものために、休むことを快く許してくれる雰囲気ができてきている。男性が家事・育児をするのも当たり前で、育児をする男性をわざわ

ざ「イクメン」と呼んで特別視する日本の感覚は、まだまだ改善する仕組みがあることを 物語っているようだ。

自分の人生は自分で設計する。設計できる環境がある。

デンマークのような北欧の福祉国家について、「国が国民を手厚く保護する」ということではないということ。それは、真の民主主義政治に見えてくると考える。デンマークでは議員選挙の投票率が高い。それは、高い税金を払っているからこそ、その税金の使われ方をより良いものにするために働きかけていこうという意識があるからである。

自分たちの生活をより良くするために積極的に働きかけていくというのは、教育の場面でしっかりと身に着け、職場においてもどんな働き方をしたいか、会社が用意してくれる制度の中から選ぶというより、自分で考えて「こうしたい」と交渉するのが当たり前、そして、それは責任と義務がセットで存在している。

生産年齢人口は2065年には4500万人となる見込みであり、約半数近くもの労働力となる人口が減る日本。ますます女性の活躍が求められ、そして出産・子育てと仕事の両立に対する支援、企業に求められている。「女性の活躍」にキーポイントがあることがはっきりと見えてきた。性別によって働く業種や賃金には相違があるが、女性の労働力はデンマークの労働市場において重要な位置を占めていることを見習って、人々の意識改革も進めていく必要がある。

視察とこのレクチャーを通じ、幼児教育から障害者と高齢者福祉、働き方、人々を大切にすること、エネルギー施策、そして戦争の歴史と様々なデンマークの取り組みなどを学ぶことができた。

何より教育費を国で負担し、国民に十分な教育の機会を保障すること、問題が深刻化する前に社会的支援が受けられる仕組みになっていること。自立した国民を育て、結果的に社会保障費用が必要以上に発生しないことにつながっている。国民の暮らしは政治に直結し反映されていると感じる。

教育や社会福祉等においてだけではなく、街のデザイン、人々の心地よさの面に関しても 体感することができた。

デンマークだからできるのであって国策や制度が違うから、日本ではできないのではない。 単に「デンマークが素晴らしい!」と伝えるだけではなく、デンマークの教育などのベースにある理念や考え方を、どうやったら日本で活かすことができるか、今後の活動に反映していきたいと考える。 11月17日(金)8:30~16:00

・文化・歴史を知る③

説明:長阿彌先生(詳しい施設概要や歴史等は、HPや Wikipedia 参考)

スウエーデン

スカンジナビア半島東部の北欧最大の国。半分は森林に覆われ、9万以上の湖が点在する。 南部のスコーネ地方は豊かな穀倉地帯。デンマーク領だった時代もある。

地方自治制度

スウェーデンの地方自治制度は 2 層制。日本の市町村レベル基礎自治体に相当する「コミューン (290 団体)」、県レベル広域自治体に相当する「ランスティング (20 団体)」で、上下関係はない。機能としてコミューンは、社会福祉・教育など広域に行い、ランスティングは、コミューンより大きな人口規模を必要とする衛生・医療のようなサービスを供給するためにある。

コミューンで働く多くの人が教育福祉に従事。その多くは女性。1980 年頃から、経済成長の鈍化と財政赤字の拡大が進み、高齢化や女性の労働市場への参加を踏まえ、医療・介護、育児における財政需要の拡大への対応が必要となってきた。地方政府消費支出の年間増加率を2%に抑えることを目標に置き、フリーコミューンの実験(1984~91 年)によって、地方政府における行政組織運営の弾力化や補助金の使途に関する裁量性の増大を試み、1991年地方自治法改正、93 年財政調整制度改革を行ってきた経緯がある。

コペンハーゲン中央駅から電車に乗り約 1 時間のヘルシングエーアのフェリーターミナルからフェリーに乗りスウェーデンに渡った。







コペンハーゲン中央駅は建築物としての評価も高い

ヘルシングエーア駅

ヘルシンボリ市=人口約 10 万人の中都市。海峡を挟んでデンマークと国境を分けている。 11 世紀から栄えてきた港町、ヘルシングボリとも呼ばれるスウェーデン南部スコーネ地方 の都市。







スウェーデン ヘルシンボリの港

港前広場

昔の趣が残るヘルシンボリの街並みだが、デンマークとの間で度々領土紛争が起こり街は ほとんど焼き払われてしまった歴史がある。







世界的に有名な家具メーカー「イケア」の本社が置かれていることでも知られていて商業的にも活気がある。

聖マリア教会

14 世紀に建設が始まり、完成までに数百年を要したと言われる美しいゴシック様式のカトリック教会。ヘルシンボリで最も古い建物の一つであるとともに、スウェーデンの中でも歴史的な教会の一つで、1675 年から 79 年にかけて、スウェーデンとデンマークとの間で行われたスコーネ戦争の戦火を唯一免れた教会。元々は同じ場所に 12 世紀に建てられたロマネスク様式の石造りの小さい教会を起源としているとのこと。

入口の前には大きな乙女の像が建てられていて、この場所はヘルシンボリに住む人々から とても神聖な場所として崇められていたとされる。

日曜日のミサや特別なキリスト教行事のとき以外は、観光客にも一般開放されている。

礼拝室は重厚感のある主催壇やパイプオルガン、ステンドグラスなど厳かな雰囲気で、内部の壁は赤レンガが綺麗に積み上げて造られ壁画は質素な感じ、港町ならではで、船の模型も飾られていた。



















教会の周辺



道には自転車置き場がある。



教会横の公園



子どもが遊べるオブジェ

ヘルシンボリの歴史的な階段 Terrasstrapporna (テラストラッパー)





フェリーターミナルから街中を抜けて、小高い丘の方向へ歩いて数分の所(ヘルシンボリ 旧市街)にある、約 100 段の記念碑的な石の階段 Terrasstrapporna(テラストラッパー) は、Kärnan(シェールナン)と共に街の有名なランドマークとなっている。

建築物としてだけでなく芸術的にも高い評価があり、ヘルシンボリ市の 2002 年からの都市 保全プログラムでは、「特別価値のある建物」として分類されている。

階段は、オスカー2世(1829~1907年)によって1899~1903年に建てられた。階段を上りきった展望台(テラス)からの眺めは素晴らしく癒しの場所となっていて、毎年3万人以上の観光客が訪れる。

テラス階段は2017年9月から大規模な改装が行われている。貴重な階段をできるだけ多く、可能な限り元の状態に戻すよう、複雑な作業には数多くの対策を施しながら非常に慎重に進められている。全てが計画通りに進めば、2019年春に改装が完了する予定。

Kärnan (シェールナン)

砲台として使用されていた高さ 35m のレンガ造りの塔(写真左のテラストラッパーの隙間から小さく見えている塔)。スウェーデン南部スコーネ地方最古の建築物の一つ。14世紀から 15世紀にかけて建設された城塞で、昔は軍事上の重要拠点として機能していたが、対岸のデンマークとの領土を取り合う戦争により 1680年に大部分が焼失し、当時の姿を残しているのはメインの古い防衛塔の「Kärnan (シェールナン)」のみで、周囲は Terrasstrapporna (テラストラッパー) と一体になった公園。ヘルシンボリは、子どもの遊ぶスペースが必要だとした最初の都市として、1906年以来この公園に遊び場(ヘルシンボリで最大)をつくった。噴水のある鳥のダムもあり、公園からは、街や港の入り口、そして対岸のデンマークの素晴らしい景色も見える。内部には戦争の歴史などが展示されているとのこと。1893~94年に大規模改修された。

ヤコブ・ハンセンの家







プレート



向かい側は近代的な建物

スコーネ戦争で、ヘルシングボリの街はほとんど焼き払われる被害を受けたが、住宅の中で唯一無事だったが、このヤコブ・ハンセンの家。中世スウェーデンのスタイルを残し、歴史的に貴重な家として、ヘルシンボリを代表する観光名所となっている。最初のオリジナルなものは 1600 年代に建てられた。1931 年に改修され今の姿となった。外部は赤いレンガ造りにこげ茶色の木枠をあしらったあたたかみのあるデザイン。

通常内部に入ることはできないが、ヘルシンボリ市民はここを結婚式やパーティなどの華やかなイベントや、7人ほどの会議などをするときに利用できるように会議センターとして 運用されている。

街の様子







ヤコブ・ハンセンの家の作りに真似た家のつくりは、あちこちで見られる。(写真左) デンマークとは違い、多少坂道がある。街中に大きなオブジェ(写真中央) 歩道にも、大きなハートのオブジェ(写真右)







クリスマス準備が始まっていた。樹木を利用してツリーやプレゼントみたいに装飾。(左) 公園の遊具、地面は子どもが転んだり頭を打ったりした時の衝撃を和らげるための素材が 使用されていた。(中央・右)







近代的な建物も増えてきている。

市庁舎





ヘルシンボリの市庁舎は、1870年に建設された。現在も議会なども行なわれる現役の施設。ネオゴシック調の重厚感ある建物は街のシンボル。高さ 70m の塔は、尖った天辺に特徴があり、設置された時計は定時になると時刻を知らせる。また、建物の周りを彩るステンドグラスには、ヘルシンボリの歴史が描かれている。

市庁舎の正面には、第2次世界大戦中ドイツに占領 されていたノルウェーとデンマークをスウェーデン が独立回復支援したことを記憶するため

「Norwegian and Danish memorial stones」という 記念碑が設置されている。→



市庁舎前の広場には、ヘルシンボリを舞台に した戦で勝利を手にした英雄スタンボックの 銅像が立っている。→



スウェーデンでも レンタサイクルが 活用されている。→





クロンボー城(デンマーク)













デンマーク東部、シェラン島北部のヘルシングアにあるルネサンス様式の古城。もとは通 行税徴収のための小城であったが、1585年、デンマーク王フレデリク2世により大規模な 城塞として改築された。完成は16世紀。1629年に焼失したが後に再建。北欧ルネサンスを 代表する傑作とされていて、シェークスピアの悲劇「ハムレット」の舞台のモデルになっ た城として知られている。北欧の歴史上重要な建築物であることが評価され、2000年、ユ ネスコの世界遺産(文化遺産)に登録された。



壁一面の映写





デンマークの首都コペンハーゲンから約 44km 北に位置し、対岸のスウェーデンと国境を接 するカテガット海峡に面した岬に建っている。

海峡の幅は4km、北海とバルト海を結んでいる。この海峡を通過する船から通行税を徴収す るため、城は重要な役割を果たした。海に向いた大砲が偉容を誇っており、地下には兵舎 とともに牢が設置されている。





















1629 年 9 月、失火によりクロンボー城の大半が焼失したが、礼拝堂はアーチが頑丈であったために失われずに済み、1631 年に修復工事を始め、6 年にわたる工事では塔を高くするなど防御力強化が図られると同時に、城内も改修され、初期バロック様式が導入された。この時にユトレヒトから招かれたヘラルト・ファン・ホントホルストやサロモン・コニンクが新たに描いた天井画は現在も残されている。









執務が行われた部屋 暖炉や家具、ベットなどが保存され 晩餐の様子を再現されている。





天井画→

1658 年、クロンボーはスウェーデンのカール・グスタフ・ウランゲルに攻められ落城。スウェーデン勢が城を放棄した後の17世紀末期には、さらに城の外郭を強化する工事が行われた。1760 年から1763 年にはフレデリク5世が使用するために北側の翼廊が改修されたが、以後クロンボー城に王が住むことはなく、1772 年には、クーデターの発生で囚われの身となったデンマーク王クリスチャン7世の妃カロリーネ・マティルデが一時期クロンボーに幽閉された。

1785年以降1924年の近年まで、城はデンマーク軍の基地司令部として利用されていたため、城内は創建当時の面影は残されていない。また城内には、巨大なホールやデンマーク商業海事博物館があるほか、シェークスピアを記念した石版が設置されている。























子どもが遊べる部屋もあり、お絵かきや工作、レゴなどができる。

サンクト・オライ教会

デンマークの北部、ヘルシンゴーの大聖堂教会。 歴史は 1200 年前後から、現在の建物は 1559 年 に完成。1961 年、教会はヘルシンゴー教区の設立 に関連して大聖堂の地位を与えられた。教会は 2000 年から 2001 年に完全に修復工事が行われた。



ヘルシングエーアの町並み 壁画があちこちに施されていて歩いて楽しい。











カラフルな家が多い

ヘルシングエーア駅 お城のような内外の装飾





コペンハーゲン市の創設者 アブサロンの像 街ではクリスマスマーケット開催中











日照時間が短いため、夕方4時半過ぎにはこのような暗さになる。

所見:スウェーデンの文化や歴史施設等、また街を実際に歩き、現代に引き継がれたものや新しい考えなども含めた、まちづくりへの配慮など、幸福度が高い背景や考え方に触れることができた。スウェーデンでは、教育や保育、社会福祉に関することは実際に見学できなかったが、子どもの成長を大切にしている面が、歴史的施設の中にも当然のようにあり、街中にも多く見受けられた。戦いを幾度も経験した中で、人間の愚かさを身に染みてきたことが国づくりにつながっているようにも思えた。

宗教も含めた文化や歴史、人や物を大切にする考えを、スウェーデンでもデンマークでも 街中で体感することができた。

北欧では、日照時間の短さから、うつになる確率が高い。だからこそ人を大切にする社会保障も充実が図られてきた一面がある。それが、社会保障が整い過ぎて、将来の目標がなくなり自殺者が多いとの北欧のイメージがあるとも言われている。しかし、実際には自殺率は日本の男性の10万人当たりの自殺率の方が高い。

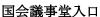
女性の社会進出が進み制度を整え、人々の働き方がまた社会を変えていくと視察を通じて 実感できた。日本においても、幸福度を上げていく施策を重要視しスピード感をもって具 体的に進めていかなければ、生産年齢の減少に歯止めは利かないと考える。

地方での実践、国への働きかけなどにつなげていきたい。

18 日 (土) 8:50~9:20

・文化・歴史を知る④







正面

クリスチャンスボー城

ストロイエからすぐ、コペンハーゲン最中心部に位置するクリスチャンスボー宮殿。 現在は、王室やデンマーク政府が迎賓館としての使用だけでなく、国会議事堂や内閣府、 最高裁判所、デンマーク首相官邸など王国の中枢が置かれ、立法、執行、司法の三権をつ かさどる中央府がある。

また、デンマーク君主の迎賓館としても使用され、女王が公務をつかさどる場。現在、議員内閣制政治と立憲君主制を共立している。

バロック様式、新古典主義様式、ネオ・バロック様式という異なる3つの様式が採用されている。

デンマークの首都コペンハーゲンの中心部、スロッツホルメン(キャッスル島)に建つ宮城。 君主制を古くから執行してきた国家。この城には、各王家の権力争いが 800 年の長きに渡って展開されてきた歴史が刻まれている。宮殿の内部の一部のみ一般公開されている。

説明:長阿彌先生 (参考:ガイドブック)

キャッスル島は、過去数世紀に渡って何度も崩壊の危機に遭い、現在のクリスチャンスボー城は1928年からの第三期の城。

1167~1369 年 アブサロン司教の城

Havn(ハウン=後の「コペンハーゲン」)という町の外の小さな島(現在のクリスチャンスボー城の地)に、アブサロン司教(フランスの大学で高教育を受けた最初のデンマーク人、コペンハーゲンの創立者)が建設した宮殿。

Havn (ハウン) はバルト海周辺国との交易の拠点となり繁栄していった。

約 200 年後に即位したヴァルデマ—王家と敵対する者たちとの戦いの際完全に破壊されたが、交易町として重要だったために、破壊後間もなく新しい交易の拠点がつくられた。

1400~1731 年頃 コペンハーゲン城

アブサロン城跡に建設された新しい城で、城壁の周りには外堀が掘られた。

15 世紀に首都がコペンハーゲンに移動され、中世後期に重要な役果たす。即位した王達に

よって外装を変えたり増築等が繰り返されたりした。

16世紀は、クリスチャン3世が統一して城は大々的に拡張され、クリスチャン4世時代には宮廷の繁栄が頂点を極めた。

1660年に、絶対君主制が導入された時、王は永遠の居住地をコペンハーゲンに設定した。 フレデリック 4世時代、ほぼ左右対称のデザインで 5階建ての大型建造物に大掛かりな建 て替え工事を行い 1728年に完成した。

1740~1794 年頃 第一期クリスチャンスボー城

クリスチャン 6 世が即位し、コペンハーゲン城を取り壊してデンマーク史上最大の広さと 最大の建築費用で、末期バロック様式の四角形の宮殿を建設した。王が所有する 250 頭の 馬を収容する総合馬場も設置し、大家一族が入居した。

1794年に極一部を残し全焼して劇的な終わりを遂げた。

1828~1884 年 第二期クリスチャンスボー城

1794年の火災後は、王家はアマリエンボー場付近に仮住まいした。

1828 年、ニュークラシック様式に設計された第二期の城の建築完了後も、王家はアマリエンボー城に居住し、公用業務や来賓者を迎える場所として使用した。(第二期クリスチャンスボー城には、唯一フレデリック7世が居住)

1849年、民主主義が初めて導入され、国会が宮殿で執り行われた。

1884年、美しい宮殿チャペルのみを残して全焼した。

1928年~ 第三期クリスチャンスボー城

建設が決定されたのは 20 世紀初頭で、来賓用宿泊施設に加えて応接室やホールを完備し、デンマーク国会執行のための部屋も設計された宮殿の再建となる。ニューバロック様式。 クリスチャン 10 世の居住施設 95 部屋も設計されたが、結局アマリエンボー城に居住したため、それらの部屋は、当時外務省で使用された。後に首相オフィスとしても代行使用されている。

※二度にわたる宮殿火災の原因は、煙突の煤の 溜まりと過剰加熱だったとされている。第一期 は、防火壁設備無く、城壁裏の空調パイプが縦 横無尽に重なっていて火の回りが早かったと いうこと。

第二期は、防火壁設置し防災設備もあったが建 物は炎上。貴重品や家具、その他備品等は救出 されている。



戦火も潜り抜けてきた 黒く煤けている外壁↑

宮殿の地下にはロイヤルキッチンがある。

現在もグレートホールで晩餐会が催される際にはメインのキッチンとして使用されている。









ロイヤルキッチンに展示↑

販売品↑

銅製調理器具のコレクション

1920 年代は、銅製調理器具を使用しての調理の絶頂期だったが、現在はコレクションとして 2003 年よりキッチンに残され展示されていて調理には使用されていない。

細かなデザート用製品から 40Kg の鍋や特大コーヒーポットなど、約 800 個 45 種類を保有し、見事な伝統技工の証として、またその規模など欧州全体でも大変独特なものとされている。

トーヴァルセン美術館(Thorvaldsens Museum)は、デンマークの首都コペンハーゲンにある美術館。1839 年から建設工事がはじめられ、1848 年にオープンした歴史ある美術館である。クリスチャンスボー城の北に位置する。

デンマークを代表する彫刻家のベルテル・トーヴァルセンの作品が集められている。 (写真左と説明は Wikipedia より)

当日は、工事があっていて外側に足場が組まれていた。





トーヴァルセン美術館



クリスチャンスボー城 全体掲示板

所見:デンマークの議員内閣制政治と立憲君主制を共立の現在に至るまでを、建築物等を通じて学んだ。13 日に見学した文化芸術的な物や王宮等々の建物などとも合わせ、デンマークの歴史を重く感じさせられた。そして、バルト海周辺国との交易の拠点となり繁栄していく中で、スカンジナビア地方において、農業や漁業を担う人々の手工業などでも、当時は高度な技術を有し、更に大型の木造船の建造に関しても優れており、それらを活用した交易で政治的にも経済的にも大きな影響があったとのこと。外部との交流があることは大きな刺激でもあり、国を持していく力を付けていったのであろうかと考える。戦争の歴史からも様々な戦いを経験し、争うのではなく国民を守るための判断をし、結果的に国を律している。命を重んじ争わないという強さを知り、幸福度の高い国の存在感をあらためて感じた。